

下野見自治区誌 『しものみ』  
追補版



1998 水源桜まつり

平成22年度  
下野見自治区

## はじめに

平成8年に下野見自治区誌『しものみ』を発行しましたが、内容が不十分な項目、また、欠けている項目が多々見受けられました。今回、電子ファイル化するに当たって、その後入手したり、調べた資料を自治区誌の追補版としてまとめました。皆様のご参考となれば、幸いです。

尚、自治区誌の電子ファイル化は平成22年度の「わくわく事業」の助成を受けて実施しております。

## 参考文献

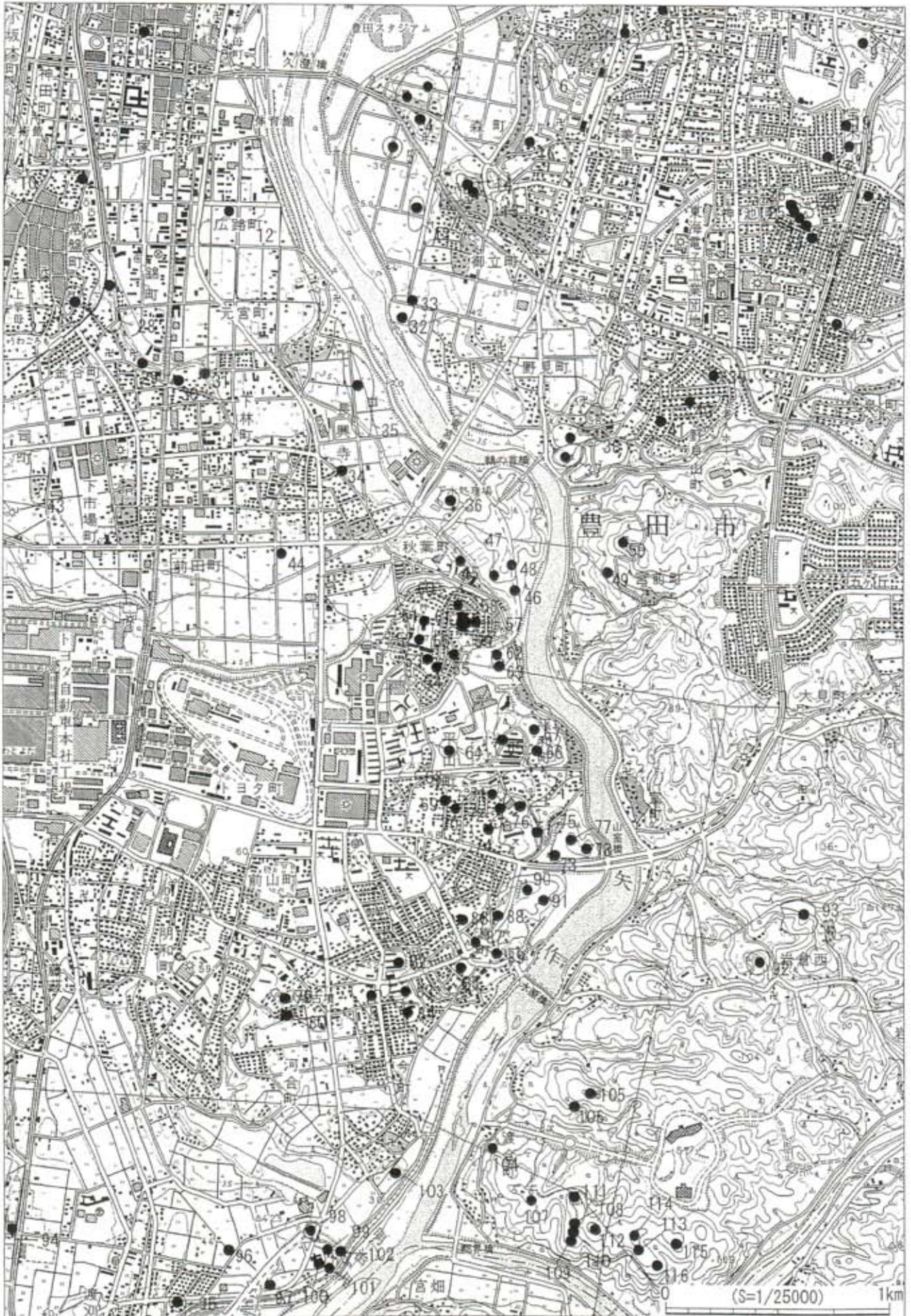
- |                      |                   |
|----------------------|-------------------|
| 秋葉遺跡・酒呑ジュリナ遺跡        | 豊田市教育委員会          |
| 益富誌                  | 益富誌編集委員会          |
| 鶯鴨町誌                 | 鶯鴨町誌作成委員会         |
| 豊田市史（三）（人物編）         | 豊田市史編さん委員会        |
| 高橋村誌                 | 高橋村誌編さん委員会        |
| 安城市史 3巻              | 安城市史編集委員会         |
| ひとすじの流れ              | 安城文化協会            |
| 明治用水百年史              | 明治用水土地改良区         |
| 明治用水120年記念誌          | 明治用水土地改良区         |
| 明治用水アーカイブス           | 明治用水土地改良区         |
| 枝下・明治用水緑道            | 水土里ネット明治用水        |
| 郷土資料館だより No.34 65    | 豊田市郷土資料館          |
| 愛知の歴史街道              | 愛知古道研究会           |
| 企画展 戦争のなかに生きる        | 安城市歴史博物館          |
| 豊田市の戦争遺跡             | 豊田市平和をねがう戦争展実行委員会 |
| 研究紀要 第三集             | 豊田市歴史研究会          |
| 特別展 川をめぐる暮らし         | 豊田市教育委員会          |
| 八坂神社                 | 学生社               |
| 物価今昔                 | 愛知県企画部統計課         |
| 豊田の方言                | 豊田市教育委員会          |
| ふるさとの語り部集（近代の暮らしと食Ⅰ） | 豊田市教育委員会          |
| ふるさとの語り部集（近代の暮らしと食Ⅱ） | 豊田市教育委員会          |

## 本誌の変更箇所

- ① P61（9）お不動さん（10）弁天さん：H22年6月に整地され、消滅しました。
- ② P99（11）自営業：H13年4月、4番組に東園工務店、資材置場・飯場を設置。H15年10月、野見山パターゴルフ場閉鎖。H16年3月、2番組にアパート3棟新築。H21年、山菜苑水源閉店。

## 目 次

凡例：追補版の内容（本誌の関連ページ：内容）	ページ
1. 秋葉遺跡周辺の遺跡分布（P 1 2：町の生い立ち）	1
2. 野見神社の相撲（P 2 3：村社式内野見神社）	3
3. 水源公園の神社・石碑（P 3 6：明治用水）	7
4. 初代・旧頭首工（P 3 6：明治用水）	1 0
5. 初代・旧船通し（P 3 6：明治用水、P 7 3：船通し）	1 4
6. 人造石工法（P 3 6：明治用水）	1 7
7. 神宝になった考古遺物（P 5 1：野見神社）	1 8
8. 土師塚（P 5 1：野見神社）	1 9
9. 渡辺規綱（P 5 1：野見神社）	2 0
1 0. 擧列百興年（P 5 7：山頂の石碑）	2 1
1 1. 周道如砥（P 6 0：郡道の完成記念碑）	2 2
1 2. 金属回収令（P 7 1：火の見櫓跡）	2 5
1 3. 土場・問屋（P 8 0：川船）	2 6
1 4. 杉坂明治館絵葉書（P 9 9：自営業）	2 7
1 5. 牛頭天王（P 1 0 2：お宮の行事）	3 0
1 6. 物価の推移（P 1 2 1：生活）	3 1
1 7. 子どもの遊び・わらべ歌（P 1 3 2：遊び・娯楽）	3 3
1 8. 豊田の方言（P 1 3 5：民話）	3 5
1 9. 8月14日の空襲（P 1 1 8：B 2 9墜落地、P 1 3 5：空襲）	3 8
2 0. 大見川の河川改修（P 1 3 5：災害）	4 8
2 1. 山室花はうす（P 1 3 7：花工場）	5 0
2 2. 東海環状自動車道（P 1 3 8：高速道路）	5 2



第3図 秋葉遺跡周辺の遺跡分布図 (1:25000、番号は第1表に対応)

第1表 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	種別	時代
1	拳母城跡(板城)	城跡	江戸
2	八柱社古墳	古墳	古墳
3	曾根遺跡	集落跡	縄文
4	寺下古墳	古墳	古墳
5	森城跡	城跡	室町
6	南山畑遺跡	集落跡	弥生~古墳
7	山ノ神古墳	古墳	古墳
8	不動古墳	古墳	古墳
9	鏡田古墳	古墳	古墳
10	拳母城跡(七州城)	城跡	江戸
11	常盤町遺跡	散布地	縄文
12	瀬穂遺跡	散布地	奈良~鎌倉
13	古城遺跡	集落跡・墓域	奈良~室町
14	市塚古墳	古墳	古墳
15	市塚南古墳	古墳	古墳
16	白草古墳	古墳	古墳
17	宝来1号墳	古墳	古墳
18	宝来2号墳	古墳	古墳
19	宝来3号墳	古墳	古墳
20	香久礼遺跡	散布地	旧石器
21	香久礼1号墳	古墳	古墳
22	香久礼2号墳	古墳	古墳
23	香久礼3号墳	古墳	古墳
24	香久礼4号墳	古墳	古墳
25	香久礼5号墳	古墳	古墳
26	香久礼6号墳	古墳	古墳
27	敷下遺跡	散布地	縄文
28	衣城跡(金谷城)	城跡	鎌倉~室町
29	金谷大塚古墳	古墳	古墳
30	稲苜塚古墳	古墳	古墳
31	稲苜東古墳	古墳	古墳
32	牛寺廣寺跡	寺院跡	飛鳥・奈良
33	牛寺館跡	居館跡	平安・鎌倉
34	供膳寺古墳	古墳	古墳
35	森下遺跡	散布地	縄文
36	丸根城跡	城跡	室町
37	丸根城跡	城跡	室町
38	丸根遺跡	集落跡・墓域	縄文・古墳・室町
39	櫻尾1号墳	古墳	古墳
40	櫻尾2号墳	古墳	古墳
41	櫻尾3号墳	古墳	古墳
42	瀬戸遺跡	散布地	縄文
43	長田館跡	居館跡	平安
44	岡田塚古墳	古墳	古墳
45	日面塚古墳	古墳	古墳
46	内山1号墳	古墳	古墳
47	内山2号墳	古墳	古墳
48	内山3号墳	古墳	古墳
49	野見山古墓	古墓	鎌倉
50	野見山遺跡	散布地	弥生~古墳
51	秋葉1号墳	古墳	古墳
52	秋葉2号墳	古墳	古墳
53	秋葉3号墳	古墳	古墳
54	秋葉4号墳	古墳	古墳
55	秋葉5号墳	古墳	古墳
56	高根1号墳	古墳	古墳
57	高根2号墳	古墳	古墳
58	高根3号墳	古墳	古墳

番号	遺跡名	種別	時代
59	高根4号墳	古墳	古墳
60	高根5号墳	古墳	古墳
61	高根6号墳	古墳	古墳
62	根養鐘北古墳	古墳	古墳
63	根養鐘南古墳	古墳	古墳
64	平山遺跡	散布地	旧石器・縄文
65	平山古墳	古墳	古墳
66	根中1号墳	古墳	古墳
67	根中2号墳	古墳	古墳
68	初次遺跡	散布地	旧石器・縄文
69	長田古墳	古墳	古墳
70	長田南古墳	古墳	古墳
71	新切1号墳	古墳	古墳
72	新切2号墳	古墳	古墳
73	新切3号墳	古墳	古墳
74	新切4号墳	古墳	古墳
75	新切5号墳	古墳	古墳
76	新切遺跡	散布地	旧石器・縄文
77	天王山古墳	古墳	古墳
78	岩鼻古墳	古墳	古墳
79	豊田大塚古墳	古墳	古墳
80	河合遺跡	散布地	縄文
81	小猿投遺跡	散布地	縄文
82	大谷古墳	古墳	古墳
83	池ノ裏古墳	古墳	古墳
84	栗師山古墳	古墳	古墳
85	寄野遺跡	散布地	縄文
86	水源高根古墳	古墳	古墳
87	水源山南古墳	古墳	古墳
88	水源山北古墳	古墳	古墳
89	堂野古墳	古墳	古墳
90	平子山古墳	古墳	古墳
91	平子山北古墳	古墳	古墳
92	岩倉城跡(城ノ峠城)	城跡	室町
93	岩倉城跡(城ノ浦城)	城跡	室町
94	高岡遺跡	散布地	縄文
95	北田遺跡	散布地	縄文
96	西禮目古墳	古墳	古墳
97	西禮目遺跡	散布地	縄文
98	雁戸遺跡	散布地	縄文
99	鳥狩塚古墳	古墳	古墳
100	大明神A遺跡	散布地	縄文
101	大明神B遺跡	散布地	旧石器
102	大明神C遺跡	散布地	鎌倉
103	今町遺跡	集落跡	奈良・近世
104	梅畑内古墳	古墳	古墳
105	荒山1号墳	古墳	古墳
106	荒山2号墳	古墳	古墳
107	上ヶ塚古墳	古墳	古墳
108	琴平1号墳	古墳	古墳
109	琴平2号墳	古墳	古墳
110	琴平3号墳	古墳	古墳
111	琴平4号墳	古墳	古墳
112	琴平5号墳	古墳	古墳
113	玄野1号墳	古墳	古墳
114	玄野2号墳	古墳	古墳
115	玄野3号墳	古墳	古墳
116	玄野古墓	古墓	室町



図6-35 野見宿禰像  
(倉地要氏蔵)

見宿禰が土師職に「いた」という説話と「矢作川そいに住みついた土器氏が垂仁天皇の時代に初めて祀った」という野見神社の言い伝えとがかさなってのことだろう。

同境内には、また、「角力士器始祖神城」という、石碑が大正四年に建てられている。これも、日本書記の説話にもとづいたものだろう。いずれにしろ、野見神社には野見宿禰が祀られ、江戸期を通じ、現代まで、豊凶を占う神相撲が、旧一〇月一七日の祭礼の神事にとり入れられ、しかも、矢作川水運の盛衰と軌を一にして、奉納相撲も盛大に行われてきた。奉納相撲の力士は、近郷だけでなく、遠く、安城・西尾などから、川船人足が力士として役人（世話役）に引率されて集り、頭取（最後の人、若竹惣一）の家に挨拶をすましてから、世話方の指示で、紅白の四本柱の土俵で、技をきそつた。紅白の四本柱の土俵が中央から許されていたのは、野見神社のほかには、市木・平井・筋生（三好町）があった。

しかし、明治末期から大正にかけて、矢作川を上り下りする川船（巾3m、長さ18〜20m）による水運が陸上の馬車や鉄道におされて、衰退するにつれ、力士の供給源を失い、地元で負担する景品の重荷などもからんで、大正八年頃に、さしも盛大だった野見神社の相撲も終わった。

矢作の川舟と 野見神社の社務所うらに、大正六年に野見の相撲 愛知県が建てた「式内陶祖野見宿禰ヲ祀ル」という石碑がある。これは、日本書記にある「野



### 野見神社・相撲奉納額

安政六年八月吉日とある。  
(1859年)

## 碧南の偉人 その12

### 5代目 清見潟又市(きよみがた またいち)

1838年に前浜新田村の農家に生れ、本名を榊原幸吉、後に養子に行き井上又市といました。1858年に江戸に出て、清見潟又市親方の門人と

なりました。1860年22歳の時、東序の口27枚目、関谷川幸吉のしこ名で初土俵を踏みました。1867年に29歳で幕下に昇進し、翌年呼び名を志貴

ノ海幸蔵と改名しました。志貴というのは、郷里棚尾の志貴毘沙門天の志貴からとったもので、毘沙門天のように強くなりたいという力士としての願い



が込められていました。1870年に十両に昇進し、師匠の名を襲名して5代目清見潟又市となりました。突っ張り押しが得意技で、1882年に西前頭

筆頭に栄進しました。又市は素質と恵まれた体力を生かし、厳しい修行に耐えたその成果が花咲いたのです。1885年27歳の時、幕内在位13年、26場所で又市は現役を引退し

ました。その後、1891年に清見潟部屋を受け継ぎ、弟子の養成に力を尽くしました。西三河地方には清見潟一門の力士が多く、草相撲の興行にも後援の手を差し伸べました。また、本場所の土俵検査役に

抜擢され、1898年60歳まで続けました。

#### ●略歴

1838年(天保9年)

三河国(愛知県)碧海郡前浜新田の農家で出生。

1858年(安政5年)

江戸に出て、3代目清見潟又市の門人となる。

1860年(万延元年)

東序の口27枚目となり、関谷川幸吉のしこ名で初土俵を踏む。

1861年(万延2年)

序二段昇進

1862年(文久2年)

新ノ海幸吉と改める。

1863年(文久3年)

三段目に昇進。

1867年(慶応3年)

幕下に昇進。

1868年(慶応4年)

志貴ノ海幸吉と改める。

1870年(明治3年)

十両昇進。5代目清見潟又市を襲名。

1885年(明治18年)

引退。年寄専務となる。

1900年(明治33年)

死去。

参考文献 碧南事典ほか

奉納木札  
 大関 松谷清次  
 関脇 小石川新蔵  
 小結 都川善十  
 行司 木村武七  
 木村八曾次  
 前頭 若竹惣市  
 緑川儀七  
 初瀬川喜重  
 前頭 富蔵藤吉  
 花車甚三  
 東京 清見瀧又市  
 頭取 岡野川重兵工  
 小頭取  
 世話人中  
 相撲中  
 大関可 小石川新蔵  
 千種万歳大々叶  
 明治五年甲申八月十日



### 神明社前の奉納相撲

飛泉住人・小石川新蔵（宇野新造）と野見住人・若竹惣市の奮斗姿もあつたやに見える。

### 泉町・神明社の相撲奉納木札

野見神社の興行が終わって飛泉村の大相撲が開かれるのが恒例であつた。

鴛鴨町・若宮八幡社の相撲奉納額

六、相撲興業額

巡業相撲を招いての収益金を神社維持費に充てていた。

奉納御神前  
大関川傳左衛門  
関脇富田川藤藏  
小結浮城嘉右衛門  
行司木村勝右衛門  
前川新三良  
前都川い八郎  
前川九郎平  
前若の浦定兵衛  
前紅葉山菊右衛門  
前入川左衛門  
前二十山庄兵衛  
江戸年寄  
清見海又藏  
頭取若の川九良左エ門  
世話入日の出山文右エ門  
梶の樂豊吉  
吉の川七藏  
榎山與左衛門  
大関叶  
清見海門人  
いろいろは山菊藏  
文政八乙酉清月吉祥日  
千穂萬歳楽

裏書  
天保七丙申三月中旬ヨリ  
八月下旬迄凡百日余雨  
降八月十三日夜六過ギヨリ  
大風雨ニ付田畑オビタシク  
芎兩ニ穂五斤半麦兩ニ  
四斗二升カエ米兩ニ四斗カエ  
粟ハ斗カエキビ七斗カエ  
ヒエ石式斗カエ是ヨリ  
過ギ……以下書いていない

西の方  
大関上ヶ汐六郎  
関脇遠津清十  
小結荒川金園吉  
行司木村泰治郎  
前頭繁ヶ濱由吉  
前頭清風吾助  
前頭高橋種三郎  
前頭島ヶ崎方吉  
前頭仲ツ森直吉  
前頭小鉄砲喜四郎  
前頭鎌戸川善治郎  
前切島ヶ崎方吉  
東京年寄  
追手風喜太郎  
世話人中  
取 濱碓又七  
持 小出源八  
若宮八幡宮  
東の方  
大関十文字房吉  
関脇半田川玉藏  
小結西海萬吉  
行司木村亮太郎  
木村輝右エ門  
前頭有ツ川萬吉  
前頭津津風彌八  
前頭西の海伊三郎  
前頭桂川貞治郎  
前頭篤又種造  
前頭錦野太郎作  
前頭三浦川伊三郎  
初切林川貞治郎  
東京年寄  
清見海又市  
頭取三河山喜三郎  
小頭浅尾山新助  
取 若鶴藤吉  
持 釜戸川平兵衛  
大関叶十文字房吉  
清見海又市門人  
浅尾山新助  
明治廿五年  
白敬  
文政乙酉年  
當所  
兵衛九兵衛  
當人  
書

裏書  
明治廿五年  
二月五日ヨリ三日興業  
愛知縣三河国碧海郡  
寿恵野村大字鴛鴨  
九十二番戸  
成田常山之書  
明治廿五年(二八九二)

相撲興業の奉納額は全部で七枚ある。

- 文政五年(一八二二) 文政八年(一八二五)
- 天保五年(一八三四) 天保七年(一八三六)
- 嘉永四年(一八五二) 安政四年(一八五七)
- 明治二十五年(一八九二)

・千穂萬歳楽  
穂は秋の古文字。  
千穂萬歳は千年万年のこと。

・千秋楽  
法会の時の雅楽の最後にこの曲を演奏する習  
慣から、演劇、興業、相撲などの最終日を指  
し、言い方も「せんしゅうらく」と変わった。

## 水源神社

明治用水開削が無事に完了することを祈願して、明治12年（1879）に創建されました。祭神は3柱の水の神、「大水上祖神（みくまりのおやのかみ）」、「水分神（みくまりのかみ）」、「高籠神（たかおかのかみ）」です。また、境内には昭和10年に創建された水源稲荷社もあります。



手前が水源神社  
奥が水源稲荷社

## 梅村三造碑

旧堰堤には、川の中に水をせき止めるゲートがあり、人がそこまで行って立てたり倒したりしていました。そのために管理所には坂守（いりもり）といわれる人が常駐していましたが、急激に増水する降雨時にゲートを倒すのは命がけで、大変な仕事でした。

梅村三造は、明治44年3月から大正10年11月まで、この頭として立派に務め、多くの人に慕われていました。

永眠された大正11年（1922）、この碑が建立されました。



(裏)

大正十一年十月二十三建之  
発起者 有志一同

(表)

故梅村三造碑  
従四位 川口彦治書



惠澤洽萬里

從三位勲二等  
小笠原三九郎謹書

惠澤（めぐみ）萬里

（広い地域）をうるおす

（裏）  
明治用水頭首工竣功記念碑文

矢作川ノ流レヲ汲シテ碧海幡豆加茂ノ三郡ニ亘リ古来ノ荒地ヲ拓イテ現今一萬余町歩ノ耕地ヲ潤シ二万戸ノ農民ヲシテ鼓腹擊壤ノ秋ヲ誦ワシムルモノハ実ニ明治用水ノ偉業アル明治十三年ニ開通シテ以來地元開発ノ効果ハ頗ル偉大ナルモノガアリ同四十一年水利組合法ノ制定ニヨリテ愈々ソノ経営ト組織ガ整ヘラレ幹線ノ改良悪水ノ利用等土地改良ニヨル農業ノ合理化ニツトメテ結果名ニ負フ「日本テンマーク」ノ建設基調ヲナシタ全国屈指ノ模範用水路アル然ルニ此ノ根元デアル頭首工ノ施設ハ明治ノ中葉ニ修築セラレ随テ土木技術ト科学資材ニ欠ケタモノガ多クカッタノテ逐年腐朽ト漏水ノ憂ヲ増シ且ツ奥地山林ノ濫伐ニヨル水ノ増減ハ著シク配水上ノ支障モ亦甚ク多ク為ニ之レガ改修ニ画策スルコト久シカッタガ事遂ニ上司ノ認メル所トナリ昭和二十六年ニハ国営事業トシテ改築着工ノ運ビトナッタソノ工費実ニ六億五千万円ヲ要シタノデアアル然ルニ此ノ工程ヲ進メルニ当リ關係官庁ノ御勞苦ハ述ルマデモナク時ニ災害ノ襲来ヲ始メ河床ノ難工事等晝夜兼行ノ勞作ニ至ツテハ戦慄スベキモノガ多クカッタガノヲ繼續滿五ヶ年ニ及ビ今回目出度ク竣工ヲ告ゲ以テ灌溉排水二万全ヲ期シ得ルニ至ッタコトハ誠ニ關係組合員ノ幸福ノミナラズ国家永遠ニ渉ル患沢デアアルコトヲ深ク信ズル謹ンデ茲ニ官民各位ヲ始メ土地改良区役職員及ビ一般勞務者ノ御協力ニ敬意ヲ表シソノ一端ヲ記シテ偉功ヲ御昆此ニ伝ヘントスル更ニ亦此ノ用水路開鑿ノ創始者デアアル都築岡本伊与田翁等畢生ノ鴻業ニ対シ厚ク感謝ノ意ヲ捧ゲルト共ニ此等ノ勞苦ニ応ヘンニハ弥々食料増産ノ実現ヲ図リ一層光輝アル將來ヲ期待シ之ヲ祝福セントスルモノデアアル

昭和三十一年四月 明治用水土地改良区理事長 敷六等 岡田菊次郎建之

創設委員

委員長

岡田庄太郎	稲垣利重郎
石川 友次	岩月 尊一
内藤和四郎	野々山柱次
稲垣利重郎	中根 胖次
岩月 尊一	長谷川錠平
杉浦象治郎	藪押 康衛
中根 胖次	都築 治作
藤田 潤吉	谷田 一郎
岡田菊次郎	井野 亮一
岡田庄太郎	岩月 誠治
内藤和四郎	黒野 弥一
石川 友次	神谷 五兵

農林省農業水利事業所

所長 飯田 正一

中野 惣重

同 多賀 正三

同 大成建設株式会社

同 明治用水作業所

同 所長 鶴田 祐二

同 井上 龜夫

同 同 廣岡 文司

同 同 菊田 外次

同 野島 徳治

同 主事 杉山 信次

岡崎市

石匠 小林秋三郎

## 岡田菊次郎翁の銅像

水源公園の小高い丘の頂上に岡田菊次郎翁の銅像が建っています。

岡田菊次郎（1867～1962）は安城村に生まれ、若くして村会議員、助役（31歳）、安城町になつてからは町長も務め、道路整備や教育施設等を誘致し、日本のデンマークと言われた農業先進地へと発展させました。

明治用水には明治30年（1897）、30歳で組合議員に選ばれて以来、昭和32年（1957）明治用水土地改良区理事長を退任するまで半世紀以上にわたって携わり、水源かん養事業や水路の改良、現在の頭首工の完成まで明治用水の整備に努め、「水の神様」として農家から慕われました。



銅像脇の碑文



岡田菊次郎翁の名前は  
愛知県知事桑原幹根書による。

勲六等 岡田菊次郎翁（横書き）

翁は安城の産生来不言実行其誠実な人格識見稀にみる温情家殊に鋭敏な頭脳は常に公益優先のため世人のため堅い信念の下永い生涯を奉仕した仁である町村を始め県政に携わる事將に七十年教育宗教に将又文化産業交通等に貢献し就中水利事業には精魂の一切を打込みために岡菊水聖とさえいはる嘗て宮中に召れ拝謁の光榮に浴し或は藍綬褒章を賜つたのも亦故なしとせず今や齡九十尚壯者を凌ぐの概あり翁多年の宿望たる明治用水頭首工改築工事も国营事業にして茲に完成翁の面目躍如たるものあり大に偉とすべく翁の嬉は勿論多数農民の嬉も亦深し茲に有志相倚り此地に寿像を建て矢作の清流を眼下に用水の水枯るゝことなく翁の厚き恩恵と共に後世に永く伝えんとす

昭和三十一年四月八日  
岡田菊次郎翁頌徳会建之

# 明治用水水源平面図



渇水時の当初の堰跡(室町1丁目)

旧頭首工より川の中を上流に伸びているのが当初の明治用水の導水堤。  
 堰は、初期には旧堰堤より368間(680m)の地点、行徳寺の下あたりにありましたが、配水量が増えるにつれて延長され、694 間(1263m)の地点、室町1丁目に移動しました。  
 川の中程には、川船や筏の通れる切れ目がありましたが、通水期には月形の堤で締め切られていました。このため、明治17年に船通しが造られました。



取水樋門付近の平面図



旧頭首工

明治34年

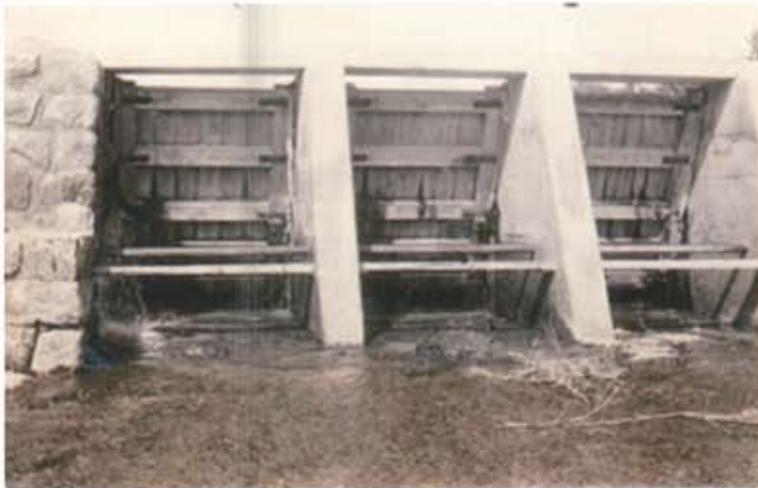
・堰堤完成

明治39年

・船通しの築造

大正6年

・魚道の設置(筏通しの両側)



放水門

扉は、回転軸が下から1/3の位置にあるため、水位が上ると自動的に倒れます。

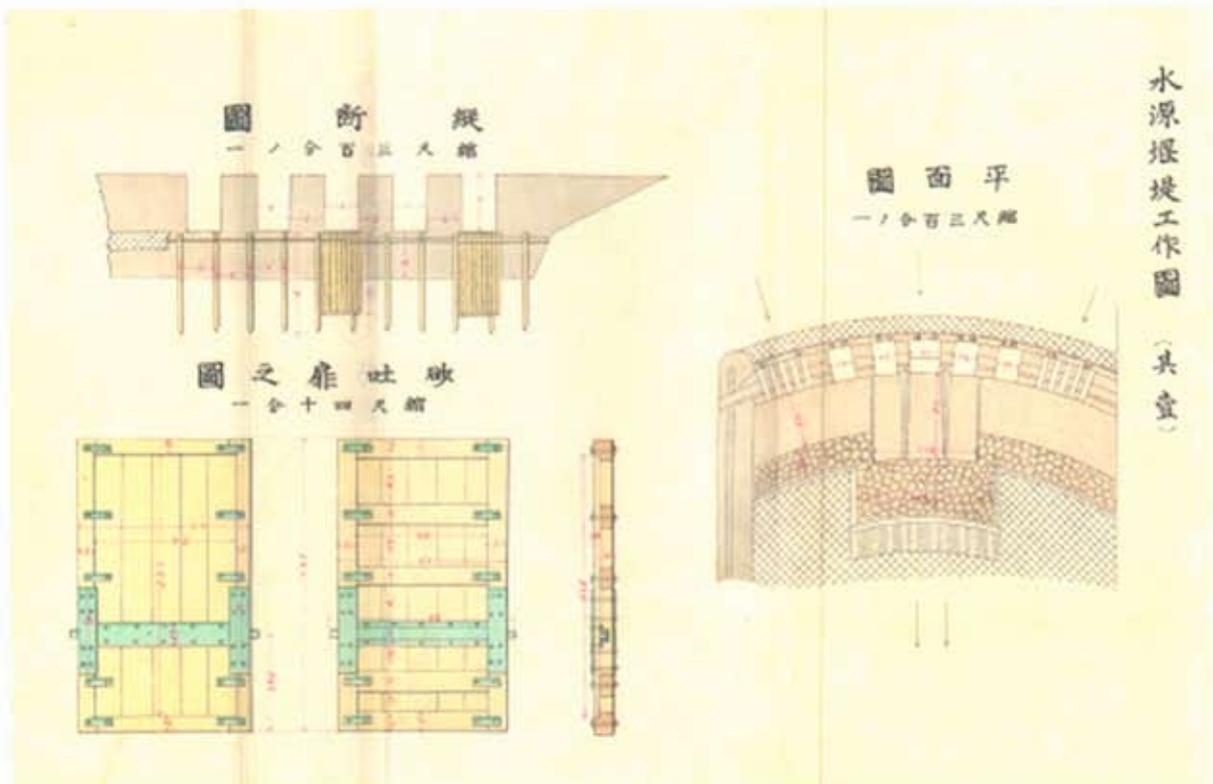
倒れた扉を立てるのは、坊守(いりもり)と呼ばれていた人達の仕事でした。

旧頭首工工作図

・筏通し(中央部5間)

・放水門 4門

・排砂門 左右5門づつ



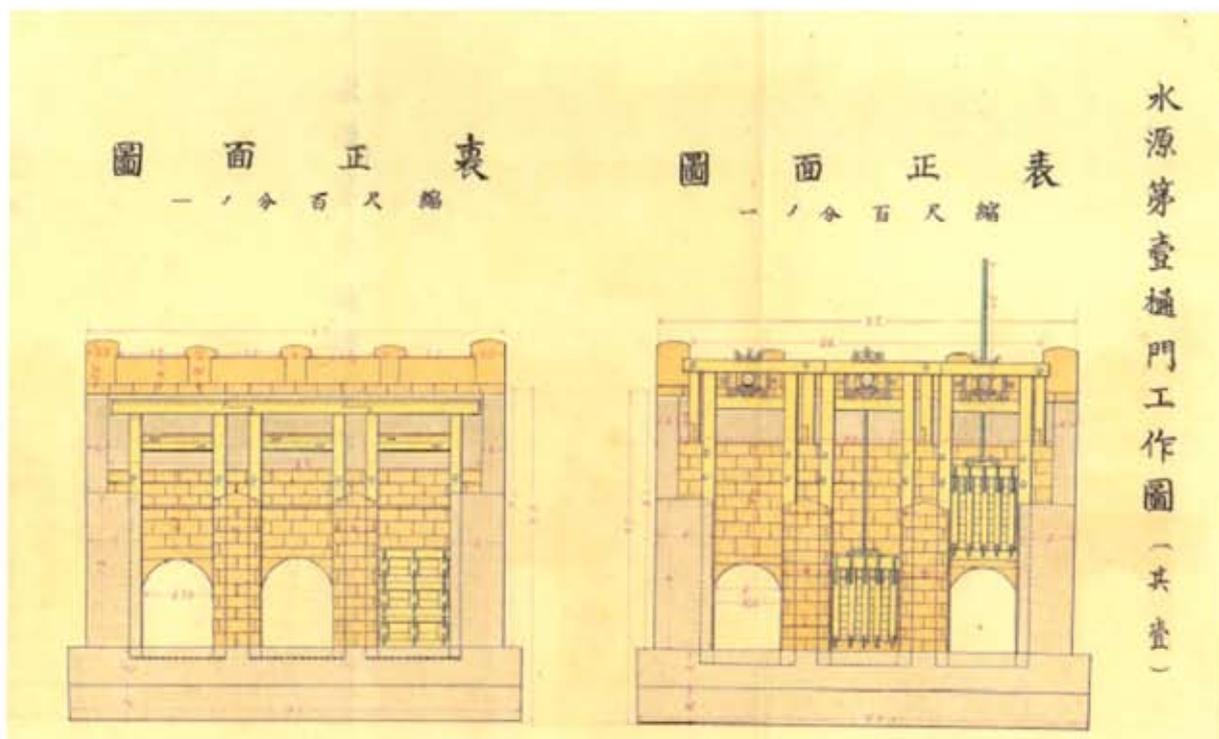
## 取水樋門(第1樋門)



取水樋門出口

取水樋門入口

第1樋門工作図



第1樋門は、当初は木製でしたが、明治42年に人造石に改築されました。

これで堰堤築造、船通し閘門の改築など、水源にかかわる一連の施設整備は終止符が打たれました。

## 旧頭首工

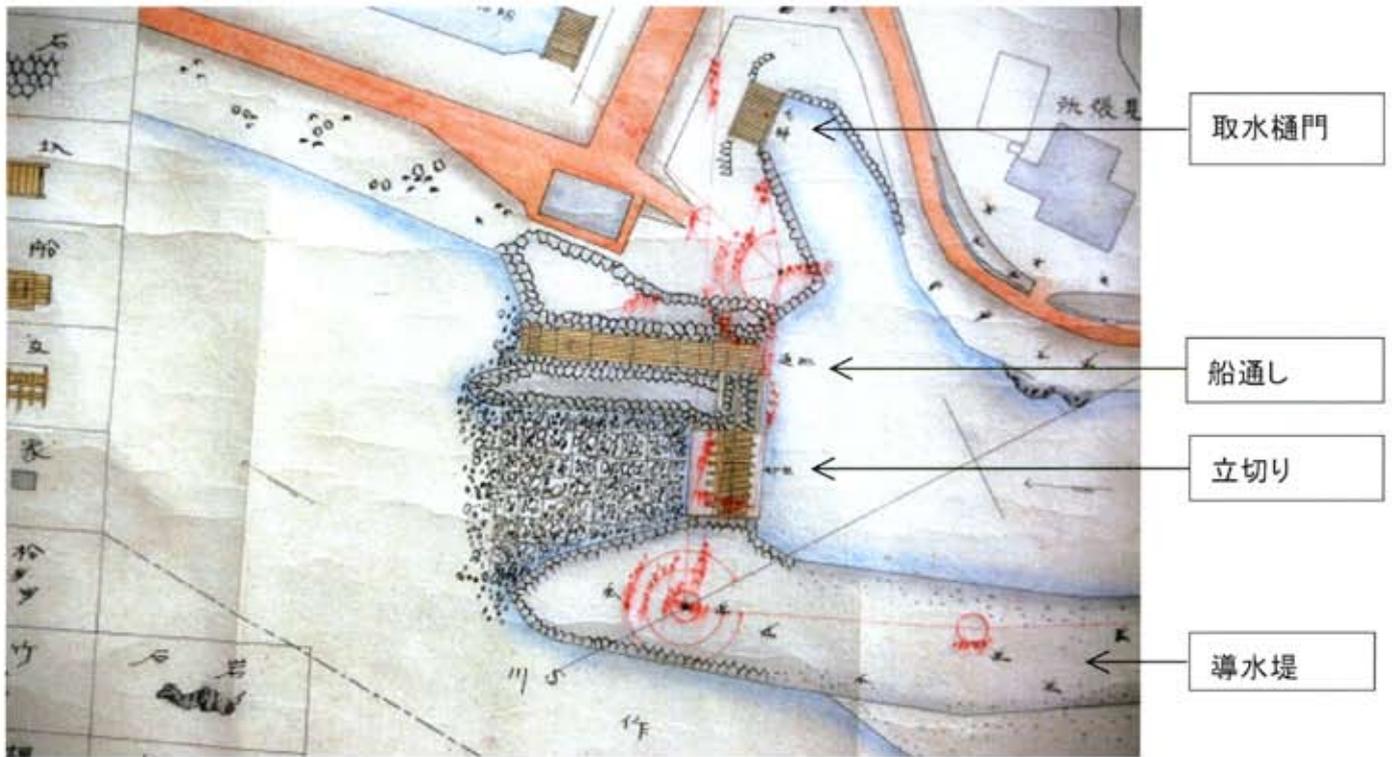
対岸に「入船館」の屋号が見える。



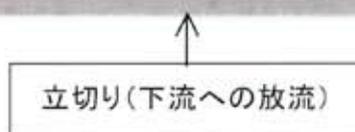
## 建設中の新頭首工



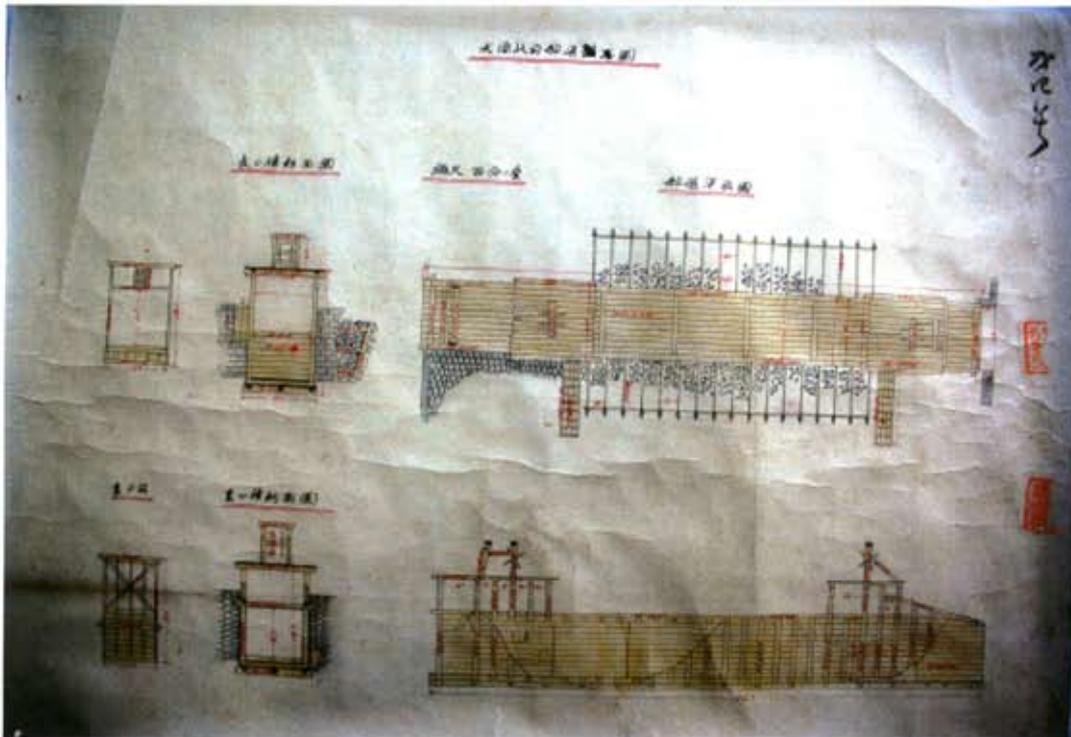
初代船通し(明治17年完成)



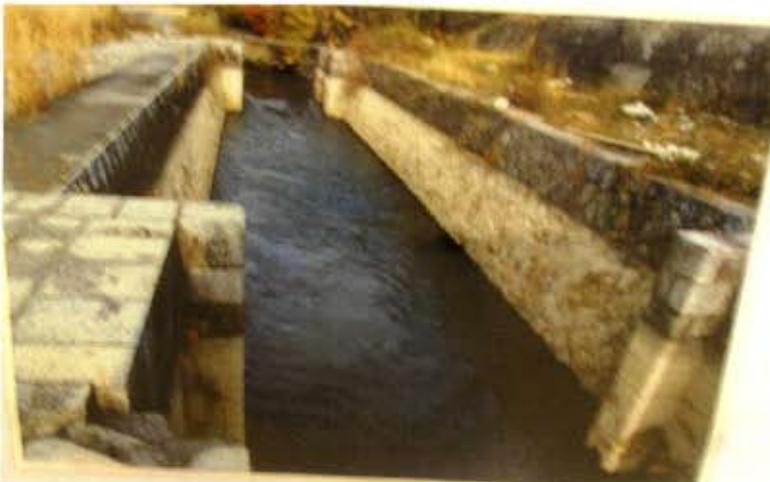
初代船通しを下流側から見た写真(明治用水関係で最古の写真)



## 初代船通しの工作図（木造）



## 旧船通し(明治39年完成)



### 初代船通しの大きさ

- ・高さ: 8尺7寸(約2.6m)
- ・幅 : 10尺(約3m)
- ・長さ: 96尺(約28.8m)

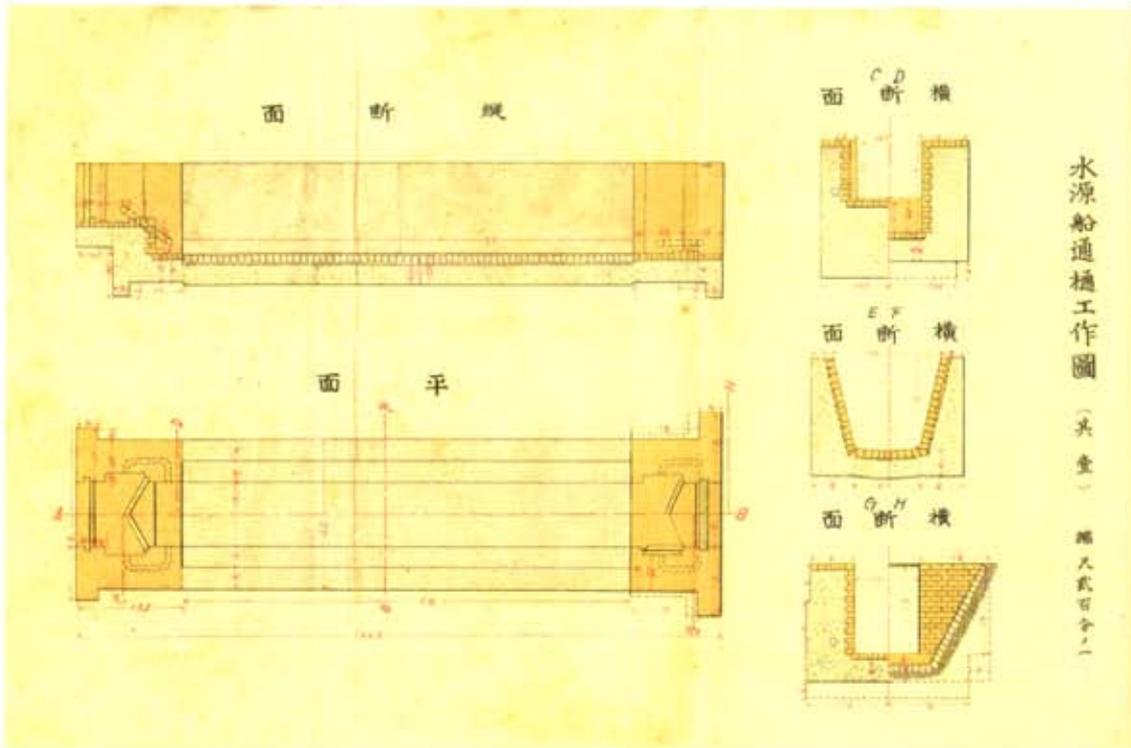
当時、矢作川は物資輸送の大動脈で、数十隻の川船によって海産物・板類・薪炭が運ばれ、木材や竹は筏に組まれ流送されていました。

## 渇水時の船通し

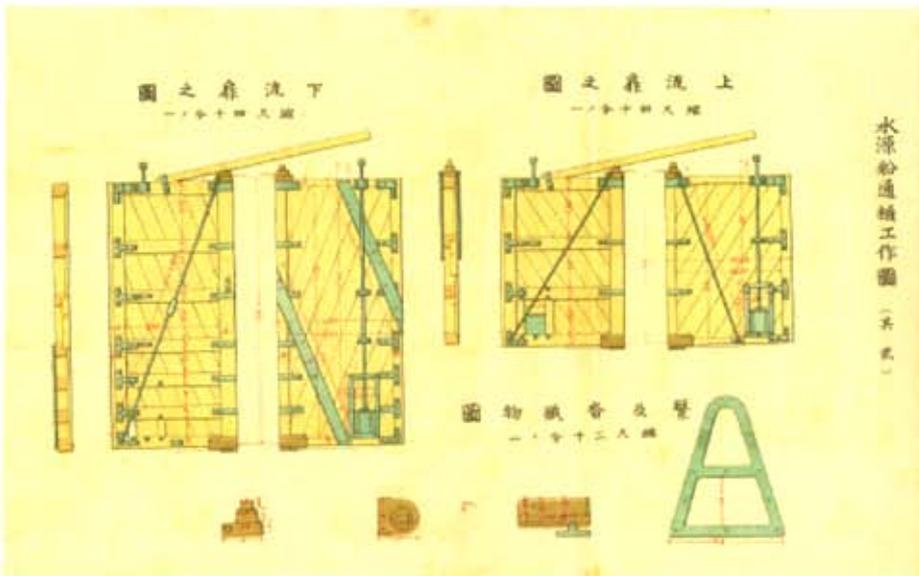
## 現況の船通し



旧船通しの工作図(タタキと呼ばれる人造石で築造)



水源船通橋工作圖 (其壹) 縮尺貳百分一

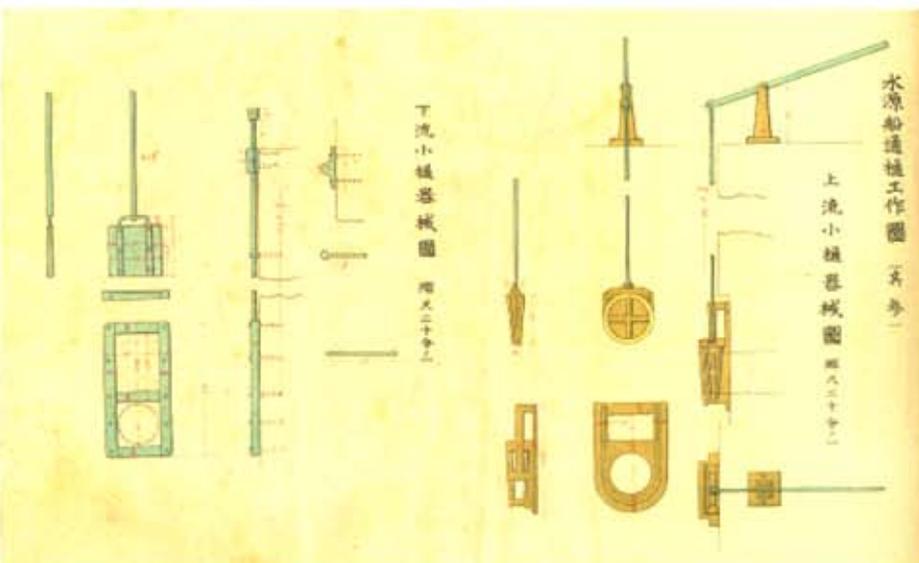


水源船通橋工作圖 (其貳)

旧船通しの大きさ

- ・高さ(上流側): 11尺 (約3.3m)
- ・幅(扉部): 12尺(約3.6m)
- ・長さ: 120尺5寸 (約36.2m)

上下流扉の工作図



水源船通橋工作圖 (其参)

注水・排水口の仕切扉の工作図

## 明治用水旧頭首工の人造石工法

豊田市水源町にある明治用水の頭首工(川をせき止め、水を用水路に引き込むための施設)から少し上流に、明治34～36年に造られた旧頭首工が部分的に残っています。現在残っている旧頭首工の遺構は、横断堰堤の約3分の1と、閘門、導水堤の一部です。これらの遺構は、一見、石積みによって造られているように見えますが、「人造石工法」という特徴的な工法によって造られています。



明治用水旧頭首工跡

人造石工法は、伝統的な技法である「たたき」を改良して大規模な土木構造物の築造に利用した工法で、近代の産業史や技術史からも注目されています。

たたきは、日本の伝統的技術として、土間・かまど・井戸側・泉水・塀・倉庫・住宅壁・水路・護岸などに、左官業で用いられてきました。このたたきを人造石工法として大規模工事に応用した人物が、服部長七です。

服部長七は、1840(天保11)年に碧海郡北大浜村(現在の碧南市)で、左官職の三男として生まれました。長七はたたきの材料の配合や練り方を研究し、水の浸入を防ぎ、化学的な作用で水中でも凝結する人造石工法を発見しました。これを応用して明治11年から37年まで、全国各地において築港工事や護岸工事を精力的に手がけました。明治用水の旧頭首工も、長七が築いた構造物の一つです。

たたきと人造石は、石灰(主として消石灰)と種土(花崗岩が風化したサバ土・真土・真砂)を原料にしているので、基本的には同じものと考えられます。ただし、材料の配合比率は一般用のたたきが石灰1:種土4～10の割合であるのに対して、人造石用のたたきでは石灰1:種土8～15の割合でした。また、人造石工法においては、土の練り具合にコツがあったようです。その練り具合は、練り土を十分締め固めた際に、

表面に水がしみ出る程度が良いとされています。人造石が硬くなる原理は、原料の消石灰が空気中の炭酸ガスと反応して、不溶性の炭酸カルシウムとなることです。また、水中で硬化する性質を持っており、水中の構造物にも用いられました。

人造石工法による構造物の形成には、構造物の規模などにより、①人造石(たたき)だけで全体を形成する、②外側を自然石とたたきで張り、内部に土砂を充填する、③本体をたたきで形成し、外側をたたきで接合した石積みで保護する、という3種類の方法があります。

明治用水の頭首工は、最も堅固な③の人造石と自然石との組み合わせで築かれています。この築造方法の特徴は2つあります。1つは練り土を厚さ1寸(3.3cm)ごとに締め木で打ち締め、水分のしみ出しを認めたら練り土をまき足し積み上げていくこと、もう1つは割石相互の間に厚さ2寸から3寸ほど練り土を充填し、石と石を接触させず練り土のなかに自然石が浮いている形にすることで、これが石垣の目地塗りなどとは異なる点です。

明治の初期には、セメントが高価な輸入品であり、国内で生産されたものは品質が安定してなかったこと、逆に、人造石の材料の消石灰やサバ土の調達安価で比較的容易であったこと、職人の人件費が安かったことなどの理由から、土木工事に人造石工法が盛んに使われました。しかし明治の後半以降は、国内でも安定した品質のセメントが量産され、安価で容易に調達できるようになり、コンクリート工法が普及していきます。人造石工法は、コンクリート工法に対して安価にできるメリットを失い、また服部長七の技術を受け継ぐ後継者が育たなかったことなどから、次第に姿を消していきました。

明治用水の旧頭首工は、昭和33年に現在の頭首工ができるまでの約50年間、矢作川の水勢や洪水に耐え、今もその姿をとどめて人造石工法の堅牢さを実証しています。なお、豊田市内には服部長七が築いた人造石の構築物として、旧頭首工の他に鶯鴨町の葎池樋門(明治用水;家下川)があります。(天野博之)

### 《参考文献》

- 天野武弘 1994 「明治用水旧頭首工—人造石工法による近代的堰堤の先駆—」産業考古学会編 『日本の産業遺産300選3』  
 大橋公雄 1998 「人造石(たたき)工法とその遺構」中部産業遺産研究会『産業遺産研究5』  
 明治用水土地改良区 1984 『明治用水』 復刻版

# 神宝になった考古遺物

## —野見神社の巻—

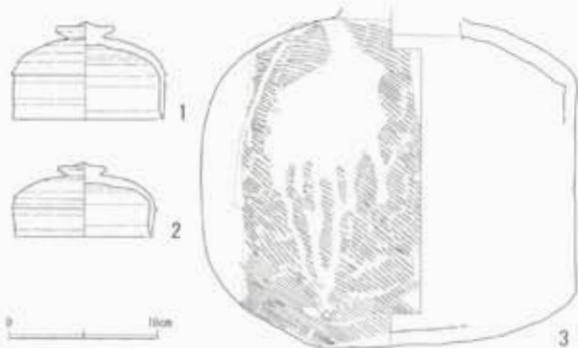
豊田スタジアムの南東2.5kmの矢作川東岸には、野見山が美しい姿を見せています。その山頂に鎮座するのが、延喜式内社の野見神社です。祭神である野見宿祢は相摸の神様として有名ですが、皇后日葉酢媛命が亡くなった際、殉死に代えて埴輪をつくることを提案し、土師臣の姓を与えられたことでも知られています。

この神社に伝わる神宝で、現在は豊田市郷土資料館に寄託されている資料の中に、古墳時代の須恵器3点(横瓶1・高杯ふた2)があります。横瓶(3)は、口を欠いていますが、依に似た特徴的な形です。ふた(1)は口縁部が長く、一見非常に古く見えますが、口縁端部の特徴などを見るとおそらく6世紀前葉頃の資料と考えて良いでしょう。

横瓶が集落から出土することは少ないため、古墳からの出土品と思われます。6世紀前葉は横穴式石室が普及する以前で、古



野見神社



野見神社神宝の須恵器実測図(1/5)



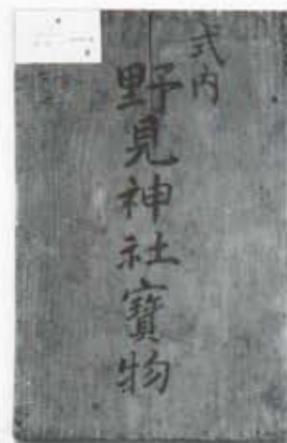
野見神社神宝の須恵器

墳はまだ数が少なく、大変貴重な資料となります。どこから出土したのかが、大変気になるところです。

さて、この須恵器は昭和31年刊の『拳母市史資料』に写真が掲載されており、「三ツ塚より発見」と記されています。「三ツ塚」の位置を記した写真は、神社の北西500mに位置する丸根城付近を示しています。また、昭和60年刊の『高橋村誌』では、丸根城二の丸に三ツ塚と呼ぶ古墳があり、築城の際に破壊され出土したものが、野見神社に伝わったと推定しています。

一方、昭和32年刊の『たかはし夜咄』には、「野見にも三ツ塚という小字に土師塚というものがある。おそらく野見宿祢の側近者を葬った処だろうといわれている。」との文章があります。現在、丸根城の北東400mあたりの墓地に「土師塚」と彫られた碑があり、旧字名は厳密には三ツ塚ではないものの、その南西に近接した地点にあります。碑はより低い段丘面の水田地帯を見下ろす台地肩部にあり、古墳があっても不思議ではない地形です。想像するに、かつてここに古墳があり、それを壊した際に須恵器が出土、村人たちは見たこともない古そうな土器は、土師臣である野見宿祢に関係があるに違いないと考え、これを「土師塚」と名づけたのではないのでしょうか。

三ツ塚=丸根城説の具体的な根拠は、現在では不明です。地名から考えれば、現在の土師塚の碑の立つ位置も、野見神社神宝の須恵器出土地点の有力な候補地の1つと言えるでしょう。(森 泰通)



須恵器が納められていた箱



「土師塚」の碑

野見神社と関連遺跡位置図(1/25,000)

## 土師塚

野見神社は、野見宿祢(すくね)を祭祀し、延喜式加茂七座の一つである。宿祢は、垂仁天皇の御代、勅命によって悪逆非道な当麻蹴速(たいまのけはや)と相撲し、一蹴で蹴速を倒した誉があった。また、宿祢は埴輪をもって殉死にかえる事を天皇に進言したので、天皇はこれをよしとして土師職に任じ、土師臣と称された。その後、その部属を諸国に遣わして土器の製造にあたらせた。

末野原や矢作川沿岸に住んでいた土師部らが、その祖・宿祢を野見山にまつり、灯明を献じたとも伝えられている。その土師部を葬った塚を土師塚といい野見町11丁目の新池近くの墓地の端にある。



土師塚



+印:土師塚の位置

# 野見神社大灯笼

「天保三壬辰年十二月」  
「從五位下朝散大夫」  
渡邊兵庫頭源規綱

野見神社本殿前に一対の大灯笼がある。これは寺部藩第十代渡邊規綱侯の寄進によるものである。灯笼には右のように年月と寄進者が刻印されている。

規綱侯は画・茶道・焼き物・薬草学にもたけた人であった。現在も又日庵（あじあ）の茶室が美術館前庭の一角に保存されている。

渡邊 規綱 わたなべ のりつな (二七九二—一八七二)

寺部渡邊家一〇代領主。寛政四年（一七九二）一月九日、奥殿四代藩主松平乗友の二男として江戸藩邸で生まれる。幼名を豊吉という。三歳のとき、寺部八代領主綱通と縁組し、寺部領主九代の家督を継いだ叔父の綱光の養子となる。享和二年（一八〇二）、名古屋に移り、名を規綱と改めた。

文化元年（一八〇四）三月、一三歳で家督を継ぎ寺部領主となる。一四年一〇月尾張藩家老となり、一二月には從五位下飛騨守に叙された。しかし、翌文政元年（一八一八）に家老職を辞し、翌二年には家督を長男寧綱に譲り、隠居し、兵庫頭ひょうごのかみに改任する。天保六年（一八三五）一〇月、剃髮ていぱつして兵庫入道と名のり、風雅の道に入った。このとき、規綱は、二八歳の盛りであった。

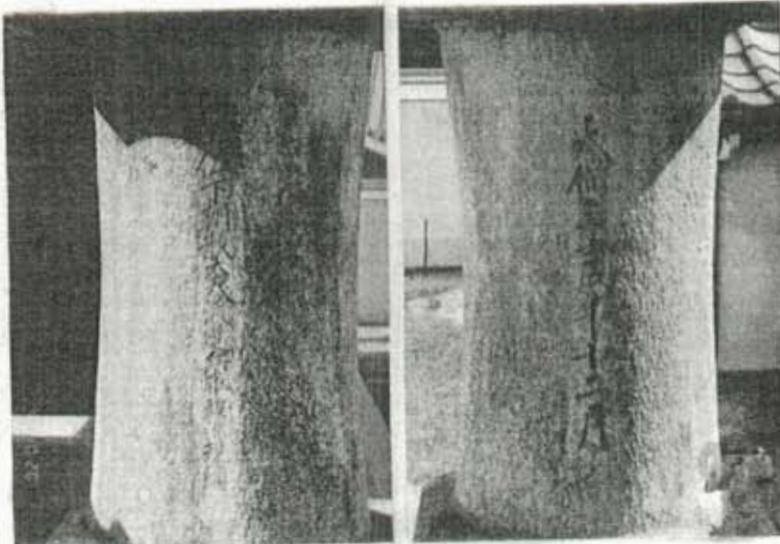
宗一・宗玄・玄竜岬・玄斎・一楽園の雅号を持つ。実弟の裏千家一二代玄々斎について、茶道にはげむ。又日庵中斎あじあちゆうさいと称し、茶人として活躍した。このほか、陶芸にも才能を示し、その作品は宗玄焼と称した。本草学の大家でもあり、『泰西本草疏』『本草図譜』『一之鳥井又日庵薬草記』を著作した。

明治四年（一八七二）一月一八日、八〇歳で入寂し、法名を規綱院殿兵庫入道釈道翁居士と号し、寺部守綱寺に葬られる。

〔高橋村誌〕・〔名古屋市史〕



渡邊規綱画像（寺部町守綱寺）



# 年興百列舉

我が大日本帝国ハ明治維新ノ大業ヲ成就シテ以来日

ソウトウ

清日露ノ両戦役ニ外敵ヲ掃蕩シ東洋ノ一角ニ帝国ノ

シカモ

存在ヲ明カニセリ然リト雖列強ハ常ニ猜疑ノ眼ヲ以

シベリア

テ極東ニ各種ノ策動ヲ事トシ為ニ北清、西比利亞、

濟南、日獨及滿州、上海等ノ如キ各事变役相続発

セシモ我忠勇ナル将士ハ幾多ノ難苦ト夷敵ニ打勝チ

ヨ

ココ

克ク帝国本来ノ使命ヲ世界ニ宣揚セリ茲ニ部内出身

コレラ

ナラヒ

者ニシテ之等各役ニ於ケル名誉アル犠牲者竝ニ参加

ナオカクノゴトク

セラレタル忠烈ノ士猶将来如斯尽忠報国勇士ノ芳名

シヨウシ

ユエン

ヲ永遠ニ頌誌紀念セムトシ茲ニ建碑スル所以トス

(裏)

從軍者名 西北利亞事变以降

再建委員

郷友会理事

昭和三十年三月十日

碑文ニ太平洋戦争参加ヲ追加シ、野見及古瀬間  
小学校聯區下ノ各從軍者ヲ永遠ニ記念ス

書者

石工

昭和十一年三月十日

# 周道如砥

信濃之產輸于他者專經本郡素僻在山間曰用供給或柳之於他是故商旅運輸之多名古屋為最固碕重之項者安藤清等新開一道以通于信濃里俗呼曰水谷道蓋以水谷忠厚督工也道自信濃來沿矢作河東而南下抵本郡始與飯田街道合自平井村西折而達于名古屋自此以南僅有小徑陞山臨河崎嶇窺隘動有顛墜之慮人人相危常絕來往焉今井善三郎築山新七今井磯一郎松本但朗大澤重熙吉田賢造成田九平原田友吉加藤藤太郎松村甚平鈴木孫市宮治又五郎等諸氏深憂之首唱開道之舉沿河各村共替成之更開新道欲使水谷道南達于岡碕以使商旅運輸日夜奔走募金鳩工以明治十六年九月起工礮岩鑿山皆石而施工最難築塘架橋水潦忽至功壘成而壞者數矣諸氏益奮率勵不懈七閱月而新道始通車馬遂得達于岡碕人者以為便其所費之金以圓數之千六百五十所備之人以工計之五千四百三十九所開之道里程凡二里廿里餘今茲四月我愛知縣令國貞君巡視本郡途次蒞本道深嘉其舉為四大字賜之於諸氏諸氏感喜買石鑿之碑面使余記願未余雖不文承乏而加茂郡長共喜而叙其概畧勒之其陰以傳不朽云

明治十七年五月

愛知縣令從五位國貞廉平題字

愛知縣西加茂郡長田中正撰撰文

葦原眉山書

「周道如砥」

信濃の産輸、他は専ら本郡を經、本郡は僻在山間、日用供給を索、或は他に於て之を伸ばす。是故、商旅運輸の多く名古屋を最と為し岡碓之の<sup>（きざい）</sup> 壘、頃者安藤清等新開一道以つて通す。

信濃の里、俗に曰く水谷道、蓋し水谷忠厚の督工を以つて也。道、信濃より來たり矢作河東に沿つて南下し本郡にいたりて始て飯田街道と合い、平井村より西折、而して名古屋に達す。此より以南、僅かに小径有り、山に隋い河に臨み崎嶇<sup>（きく）</sup> 峻險<sup>（けんえき）</sup>、動<sup>（どう）</sup> 顛<sup>（てん）</sup> 墜<sup>（たい）</sup> 之<sup>（し）</sup> 虚<sup>（こ）</sup> 人<sup>（にん）</sup> 有<sup>（り）</sup>、人相危、常に來往の馬絶えず。今井善三郎、築山新七、今井磯一郎、松本但朗、大澤重照、吉田堅造、成田九平、原田友吉、加藤藤太郎、松村甚平、鈴木孫市、宮治又五郎等諸氏、深く之を憂い開道之誓を首唱す。沿河各村之に賛成し更に新道を開き、水谷道南岡崎に達するを以つて商旅運輸に使うを欲す。日夜奔走し暮金<sup>（あ）</sup> 鳩<sup>（と）</sup> め工を以つて明治十六年九月起工す。壁岩、鑿山、山皆石、而して施工最難、堰を築き、橋を架け、水潦<sup>（すいろう）</sup> を忽せ功に至り垂成<sup>（すいせい）</sup> ず。而して〇〇數矣、諸氏益奮<sup>（きん）</sup> 率<sup>（そつ）</sup> 勵<sup>（れい）</sup> を懈<sup>（け）</sup> らず七閏<sup>（しちえびつ）</sup> 月、而して新道始めて車馬通り、遂に岡崎に達するを得。人皆以つて其所の便と為す。黄之金圓數これ千六百五十斤を以つてす。傭之人工計これ五千四百五十九所を以つてす。所開之道里程凡二里廿町餘、今慈四月我愛知縣令國貞君本郡巡視の途次、本道に莅<sup>（き）</sup> み、深く其拳<sup>（こぶし）</sup> を嘉<sup>（よし）</sup> し、書を為し四大字を之に賜<sup>（たま）</sup> う。諸氏感喜するに於、石を戴、之を鏤、碑面を使い余顛末を記す。余不文と雖も西加茂郡長承<sup>（しやうぼう）</sup> 乏、共喜而して其概略を叙し之を勤めその陰を以つて不朽に伝え云。

明治十七年五月

愛知縣令 國貞廣平字

愛知縣西加茂郡長田中正幅文

葦原眉山書

（參考）

- ※ 壁在（へきざい） 中心部から遠く離れたところにある
- ※ 頃者（けいしや） このころ、近頃
- ※ 崎嶇（きく） 山道がけわしいさま
- ※ 峻險（けんえき） けわしくせまい
- ※ 水潦（すいろう） 大水 雨水
- ※ 垂成（すいせい） 今にも成就しようとする
- ※ 率獎（そつれい） 先頭にたつて励ます
- ※ 閏月（えつげつ） 月を過ごす 一か月すぎる
- ※ 嘉する（よみする） よいとほめる
- ※ 承乏（しやうぼう） 適当な人がいないのでかりにその職につくこと

**水谷街道**

県道細川豊田線は、古くは水谷街道とも呼ばれ、明治二十二年発行の西加茂郡誌には「石ヶ瀬村内の道路は明治十五年、それ以南の道路は明治十七年に竣工、更に平井村より南は、有志の出資によつて造つた」とある。このことが碑文にも書かれており、下野見からは宮治又五郎さんの名が見られます。

この道の開削を始めた中心人物は水谷忠厚です。郡誌には忠厚は名古屋の士族とあるだけです。

「如砥如矢」という四字漢字は『詩経・小雅』に収められる「大東」の第一聯

有儼簋殽、有掾棘匕  
周道如砥、其直如矢  
君子所履、小人所視  
瞻言顧之、潛焉出涕

の中の

周道如砥、其直如矢

という詩句が起源とされている。周道は砥の如く、その直きこと矢の如し。つまり、都への道は砥石の如く滑らかで、矢のように真っ直ぐだ、という意味であろう。詩のなかでは、西の周道(大路)のこの様子は公平な政治と和平な世を象徴しているわけだが、必ずしも称賛というのではなく、その周(搾取側)の贅沢さを寧ろ被征服者の東人たちが嘆いている、という重い意味があるのである。

実際、この聯の詩句の最後尾は上に見るように「瞻言顧之 潛焉出涕」=潜として涕を出だす(不遇を顧みてさめざめと涙を流す)で終わっていてそれを暗示している。

しかし、周道に関する言は転じて、これが単に部分的に「平如砥、直如矢」というように軽く使われたり、もっと簡単に「如砥如矢」という成句で理想のように使われるようになってきたのであろう。その意味では、道の形容から離れても使い得るものである。従って、親不知の村長さんは、『詩経』に依ったというよりも、常用成句として採用したのかも知れない。尤も、現代文でも「大道一条、如砥如矢」などと使われる例があるから、単に道の真っ直ぐなばあいの表現として容易に使い得る。

この頁は明治16年、新潟県糸魚川市の親不知海岸に道が開通した時、山の壁面に書かれた「如砥如矢」の解説文を引用したものです。

# 鐵と銅をお國の爲に

鐵と銅に動員令が下りました。

鐵や銅は一國生産力の根幹であり戦争資源の中樞です。一刻も早く國力を充實するために一貫目でも多く速かに國家に集めませう。

激動する國際變局の渦中にあつて日本は今聖戰の途上にあります。この大目的を完遂するためには今日に備へ明日に準備せねばなりません。政府が今度鐵銅の特別回收を實施することとなつた所以です。

一般家庭は強制買上ではありませんが時局は各位の愛國心に基く供出を要請して居ります。第一線將兵の心を心こし切に絶大の協力を御願ひ致します。

近く日を定めて買上にまゐります。左記により供出して下さい。

◇供出して戴きたいもの：鐵や銅、真鍮、砲金、唐金などです。裏面を御覧下さい。

◇供出しなくてもよいもの：日常生活に必要なもの、立派な美術工藝品、由緒ある記念品、危険防止上必要なもの、法令で決められたもの。

◇買上値段：廢物としての公定價格で左表に記載の通りです。鑑定の上決定し、代金は概算を渡し後で市、區、町村役場を通じ拂ひます。

◇取外しや代替物：取外しや代替物の設置を必要とする工作物については裏面の申込書に御記入の上部長会長、又は隣組長に御届り下さい。工事は成可く供出者自身に御願ひ致したいのですが已むを得ぬ場合は工作班を幹旋いたします。

## 買上値段

鐵	一貫目當り	銅	銅合金	一貫目當り
普通屑(銅四割品)	〇、三〇	敵	銅	五、二〇
級外普通屑(銅五割品)	〇、二五	真	鍮(黃銅)	三、二七
白バラ(銅六割品)	〇、二〇	砲	金(青銅)	五、四二
並鉄(鉄二割品)	〇、三〇	唐	金	三、三三

二般家庭の廃棄品は大體以上の國産です。尚短け等物の並たいものはその程度に御注意致します。

## 陣圍包れ破てけ捧銅と鐵

金属供出は段々と強化されていつたが、この通知は昭和一七年頃のもの。

- ・金属回收令(昭和一六年八月二九日)
- ・同令の強化(昭和一七年五月)
- ・金属回收整理運動(昭和一九年九月)

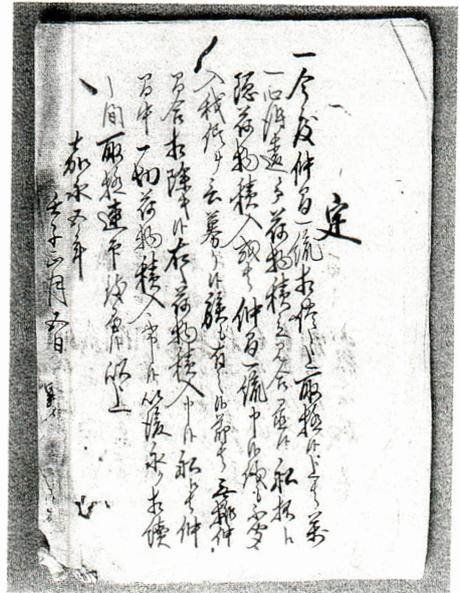
愛知縣  
大政翼贊會愛知縣支部  
戰時物資活用協會

○ 土場・問屋

川船や筏による水運の発達には問屋の存在が重要な役割を果たしている。廻船問屋は川沿いに土場を持ち荷物・商品を輸送することで利益を得たが、自己資金で商品を買ひ、それを他方面へ販売する仕入問屋を兼ねる場合や、酒屋や材木屋が自らの船着場や手船を持ち問屋を兼ねる場合などがあつた。

船荷積み仲間「定」(嘉永5年)

矢作川・巴川沿いの村々で船荷を扱っている仲間の規定である。川を流通経路とし、村や領主を超えた商業組合的な集まりがあつたことが確認できる。また問屋のほか、材木屋(白木屋・割木屋)・酒屋・油屋・綿屋・味噌屋など様々な店がどこにあつたかがわかる興味深い資料である。



嘉永五年 壬子正月五日		定	
中垣内	和泉屋 源助	細川	坂本屋六兵衛
巴川	丸川屋 又兵衛	平葦	木村屋 徳平
平葦	菓子屋 利右衛門	百々	白木屋 善六
平葦	酒屋 善右衛門	桑原	割木屋 惣助
平葦	白木屋 平四郎	九久平	鍋屋 嘉兵衛
平葦	梶屋 彦七	西山室	伊勢屋 鉄蔵
平葦	平野屋 仙吉	東山室	佐野屋 栄吉
六ツ木	白木屋 安右衛門	西山室	西山屋 重兵衛
六ツ木	萬屋 源吉	寺部	霜田屋 八曾七
中沢	小野屋 専市	牛ノ村	岡崎屋 伊三郎
中沢	田中屋 弥八	能見山	守口屋長右衛門
中沢	河内屋 五左衛門	東山室	斎藤屋 善助
中沢	笹屋 伴蔵	西山室	磯谷屋 茂八
中沢	輪連屋 伊八	細川	坂本屋 芳蔵
中沢	酒屋 治兵衛	打山	伊藤屋 萩右衛門
中沢	酒屋 常助	打山	伊藤屋 吉兵衛
中沢	味噌屋 甚右衛門	打山	伊藤屋 萬二郎
九久平	豆腐屋 茂七	打山	伊藤屋 萩右衛門
九久平	味噌屋 甚右衛門	打山	伊藤屋 萩右衛門
寺部	柏屋 藤治	越戸	山田屋 又七
寺部	綿屋 徳兵衛	長興寺	山田屋 長蔵
百々	山形屋 磯吉	樹木	綿屋 半右衛門
百々	割木屋 久兵衛	樹木	白木屋 要吉
百々	白木屋 又四郎	樹木	穀屋 茂助
百々	白木屋 政重	樹木	綿屋 弥兵衛
古鼠	材木屋 彦惣	樹木	杉木屋 彦兵衛
古鼠	萬屋 太兵衛	樹木	小西七左衛門
九久平	黒柳屋 新左衛門	樹木	大沢屋 彦七
九久平	問屋 仁右衛門	樹木	配津屋 八十吉
平古	問屋 九右衛門	樹木	中嶋屋 浅吉
越戸	問屋 源之助	樹木	高崎屋 甚三郎
古鼠	問屋 源之助	樹木	木綿屋 重助
古鼠	梅ヶ坪	樹木	油屋 次右衛門
古鼠	酒屋 新七	樹木	酒屋 又蔵
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	菊屋 吉兵衛
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	高崎屋 甚三郎
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	中嶋屋 浅吉
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	配津屋 八十吉
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	大沢屋 彦七
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	小西七左衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	杉木屋 彦兵衛
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	綿屋 弥兵衛
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	穀屋 茂助
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	白木屋 要吉
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	綿屋 半右衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	山田屋 又七
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	山田屋 長蔵
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	伊藤屋 萩右衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	伊藤屋 吉兵衛
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	伊藤屋 萬二郎
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	伊藤屋 萩右衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	伊藤屋 萩右衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	綿屋 半右衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	白木屋 要吉
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	穀屋 茂助
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	綿屋 弥兵衛
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	杉木屋 彦兵衛
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	小西七左衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	大沢屋 彦七
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	配津屋 八十吉
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	中嶋屋 浅吉
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	高崎屋 甚三郎
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	木綿屋 重助
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	油屋 次右衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	酒屋 又蔵
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	菊屋 吉兵衛
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	高崎屋 甚三郎
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	中嶋屋 浅吉
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	配津屋 八十吉
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	大沢屋 彦七
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	小西七左衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	杉木屋 彦兵衛
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	綿屋 弥兵衛
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	穀屋 茂助
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	白木屋 要吉
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	綿屋 半右衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	山田屋 又七
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	山田屋 長蔵
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	伊藤屋 萩右衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	伊藤屋 吉兵衛
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	伊藤屋 萬二郎
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	伊藤屋 萩右衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	伊藤屋 萩右衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	綿屋 半右衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	白木屋 要吉
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	穀屋 茂助
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	綿屋 弥兵衛
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	杉木屋 彦兵衛
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	小西七左衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	大沢屋 彦七
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	配津屋 八十吉
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	中嶋屋 浅吉
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	高崎屋 甚三郎
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	木綿屋 重助
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	油屋 次右衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	酒屋 又蔵
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	菊屋 吉兵衛
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	高崎屋 甚三郎
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	中嶋屋 浅吉
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	配津屋 八十吉
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	大沢屋 彦七
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	小西七左衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	杉木屋 彦兵衛
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	綿屋 弥兵衛
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	穀屋 茂助
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	白木屋 要吉
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	綿屋 半右衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	山田屋 又七
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	山田屋 長蔵
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	伊藤屋 萩右衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	伊藤屋 吉兵衛
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	伊藤屋 萬二郎
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	伊藤屋 萩右衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	伊藤屋 萩右衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	綿屋 半右衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	白木屋 要吉
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	穀屋 茂助
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	綿屋 弥兵衛
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	杉木屋 彦兵衛
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	小西七左衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	大沢屋 彦七
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	配津屋 八十吉
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	中嶋屋 浅吉
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	高崎屋 甚三郎
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	木綿屋 重助
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	油屋 次右衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	酒屋 又蔵
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	菊屋 吉兵衛
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	高崎屋 甚三郎
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	中嶋屋 浅吉
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	配津屋 八十吉
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	大沢屋 彦七
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	小西七左衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	杉木屋 彦兵衛
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	綿屋 弥兵衛
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	穀屋 茂助
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	白木屋 要吉
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	綿屋 半右衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	山田屋 又七
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	山田屋 長蔵
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	伊藤屋 萩右衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	伊藤屋 吉兵衛
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	伊藤屋 萬二郎
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	伊藤屋 萩右衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	伊藤屋 萩右衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	綿屋 半右衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	白木屋 要吉
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	穀屋 茂助
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	綿屋 弥兵衛
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	杉木屋 彦兵衛
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	小西七左衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	大沢屋 彦七
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	配津屋 八十吉
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	中嶋屋 浅吉
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	高崎屋 甚三郎
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	木綿屋 重助
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	油屋 次右衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	酒屋 又蔵
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	菊屋 吉兵衛
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	高崎屋 甚三郎
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	中嶋屋 浅吉
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	配津屋 八十吉
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	大沢屋 彦七
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	小西七左衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	杉木屋 彦兵衛
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	綿屋 弥兵衛
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	穀屋 茂助
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	白木屋 要吉
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	綿屋 半右衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	山田屋 又七
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	山田屋 長蔵
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	伊藤屋 萩右衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	伊藤屋 吉兵衛
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	伊藤屋 萬二郎
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	伊藤屋 萩右衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	伊藤屋 萩右衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	綿屋 半右衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	白木屋 要吉
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	穀屋 茂助
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	綿屋 弥兵衛
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	杉木屋 彦兵衛
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	小西七左衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	大沢屋 彦七
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	配津屋 八十吉
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	中嶋屋 浅吉
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	高崎屋 甚三郎
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	木綿屋 重助
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	油屋 次右衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	酒屋 又蔵
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	菊屋 吉兵衛
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	高崎屋 甚三郎
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	中嶋屋 浅吉
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	配津屋 八十吉
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	大沢屋 彦七
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	小西七左衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	杉木屋 彦兵衛
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	綿屋 弥兵衛
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	穀屋 茂助
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	白木屋 要吉
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	綿屋 半右衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	山田屋 又七
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	山田屋 長蔵
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	伊藤屋 萩右衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	伊藤屋 吉兵衛
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	伊藤屋 萬二郎
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	伊藤屋 萩右衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	伊藤屋 萩右衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	綿屋 半右衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	白木屋 要吉
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	穀屋 茂助
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	綿屋 弥兵衛
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	杉木屋 彦兵衛
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	小西七左衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	大沢屋 彦七
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	配津屋 八十吉
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	中嶋屋 浅吉
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	高崎屋 甚三郎
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	木綿屋 重助
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	油屋 次右衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	酒屋 又蔵
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	菊屋 吉兵衛
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	高崎屋 甚三郎
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	中嶋屋 浅吉
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	配津屋 八十吉
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	大沢屋 彦七
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	小西七左衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	杉木屋 彦兵衛
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	綿屋 弥兵衛
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	穀屋 茂助
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	白木屋 要吉
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	綿屋 半右衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	山田屋 又七
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	山田屋 長蔵
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	伊藤屋 萩右衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	伊藤屋 吉兵衛
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	伊藤屋 萬二郎
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	伊藤屋 萩右衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	伊藤屋 萩右衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	綿屋 半右衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	白木屋 要吉
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	穀屋 茂助
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	綿屋 弥兵衛
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	杉木屋 彦兵衛
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	小西七左衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	大沢屋 彦七
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	配津屋 八十吉
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	中嶋屋 浅吉
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	高崎屋 甚三郎
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	木綿屋 重助
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	油屋 次右衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	酒屋 又蔵
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	菊屋 吉兵衛
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	高崎屋 甚三郎
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	中嶋屋 浅吉
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	配津屋 八十吉
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	大沢屋 彦七
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	小西七左衛門
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	杉木屋 彦兵衛
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	綿屋 弥兵衛
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	穀屋 茂助
古鼠	酒屋 又蔵	樹木	白木屋 要吉
古鼠	酒屋 又蔵		

愛知縣三河矢作川

明治用水眞景繪葉書

水源地杉浦發行



明治用水眞景繪葉書 水源地杉浦發行 (三河四知郡母野町山室)

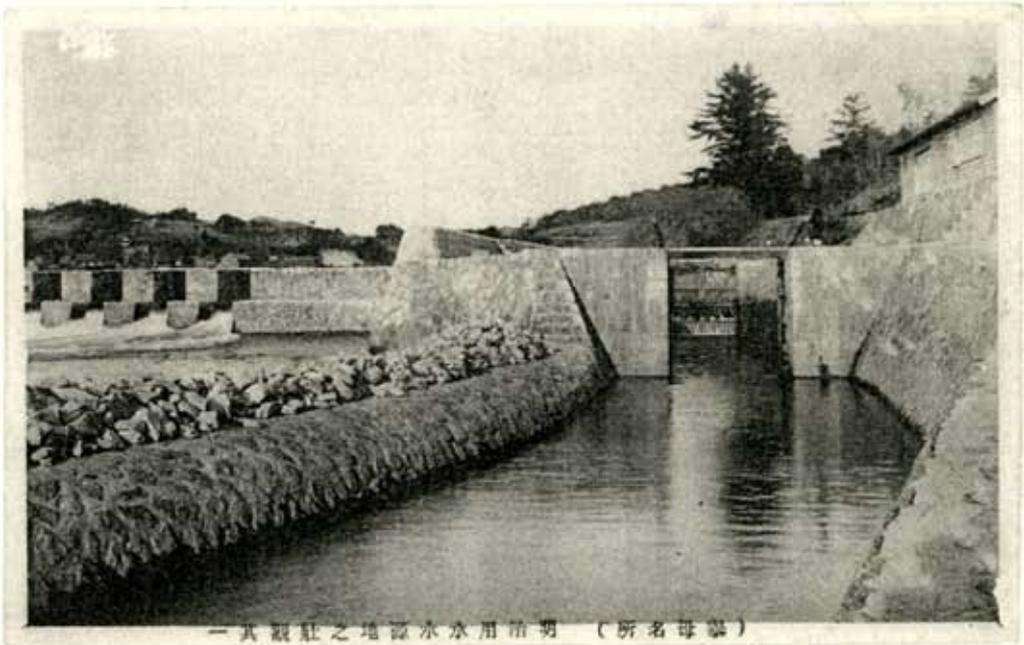


眞景繪葉書 水源地杉浦發行 (三河四知郡母野町山室)

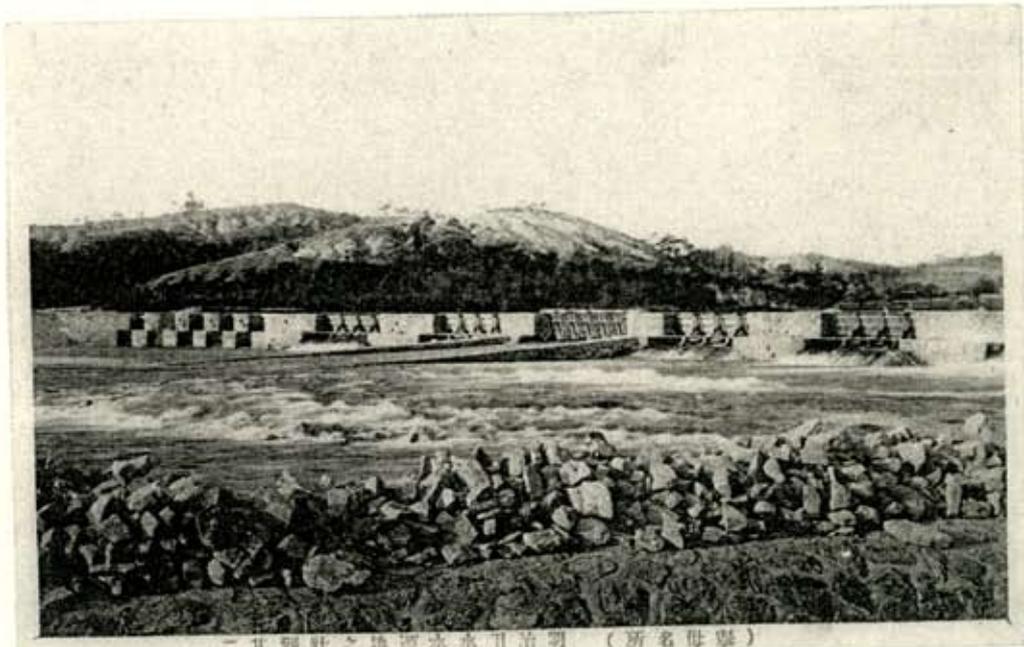
大正初期の発行



景光之所為事其水用治明 (所名母舉)



一其觀壯之地源水水用治明 (所名母舉)



二其觀壯之地源水水用治明 (所名母舉)

旧明治用水堰堤(昭和29年撮影)



対岸に「入船館」  
「たばこ」の文字  
が読み取れます。



## 牛頭天王

野見神社の祭神として素戔鳴尊(スサノミコ)が祀られており、7月に天王まつりが行なわれています。この地方では津島神社の天王まつりが有名ですが、天王まつりは祇園まつりとも呼ばれており、また、素戔鳴尊は牛頭天王(ゴズテンノウ)とも呼ばれており、これらの起源・由来はどこから来たのでしょうか。

日本は古来より神道を信じていましたが、6世紀末、聖徳太子の時代に朝鮮半島より仏教が伝来し、8世紀には聖武天皇が全国に国分寺を造り、仏教の布教に努めました。しかし、従来の神道を葬り去ることなく、神仏習合信仰が続きました。

これを可能にしたのは神が仏、菩薩の姿に変わって現れるという本地垂迹(ホジスジヤク)説です。阿弥陀如来は八幡神宮、大日如来は伊勢神宮になったと解釈しました。

祇園精舎(ギョウジョウジヤ)は天竺(インド)の舍衛国に須達(シュダツ)長者が釈迦のために立てた祇陀林寺(ギダリンジ)の名に由来するもので、祇園の名も仏教の伝来と共にわが国にもたらされました。祇園社、現在の八坂神社は876年藤原基経によって造営されました。八坂神社は古くは祇園社または祇園社感神院と呼ばれ、明治維新の神仏判然令が出されるまで、薬師堂、宝塔、鐘楼等がある神仏習合の形態が続いていました。

牛頭天王は祇園精舎の守護神であり、本地垂迹により素戔鳴尊が牛頭天王と見なされました。また、古代の韓国にも各地に牛頭という山があり、牛頭天王の信仰が行なわれていました。これで、素戔鳴尊と牛頭天王、祇園のつながりが分かりました。

素戔鳴尊は天照大神の弟神で八俣の大蛇退治の神話でも知られ、厄病、危難除け、授福の神として崇められています。





主な品目の価格一覧表（昭和20年から平成8年）

年	うるち米	牛乳（瓶詰）	鶏 卵	背広服（秋冬物）	理髪料金	初任給（県職員）	家計消費支出
	10kg	店頭売／180cc	1kg	シングル上下	大人	高卒	名古屋市／月額
20	3.57				3.50		
21	20.11				17		
22	692	4	169		10		4,311
23	1,230	9	282		25		8,621
24	1,230	11	294				11,741
25	965	11	239	㊦ 8,460	66		11,344
26	970	12	228	㊦ 8,150		3,850	14,950
27	969	12	217	㊦ 7,810	127	4,600	18,038
28	1,180	13	232	9,600		5,400	22,397
29	1,230	14	220	9,470	161	5,900	23,877
30	1,040	14	211	9,500		5,900	25,194
31	869	14	233	10,174	150	5,900	25,884
32	1,020	15	224	10,900		6,300	27,354
33	958	14	209	10,200	155	6,300	29,088
34	945	14	214	9,990		6,700	32,497
35	907	14	211	10,500	166	7,400	35,193
36	949	16	200	10,711		8,900	37,802
37	977	16	213	11,100	240	10,300	43,116
38	1,070	16	231	13,200		11,800	47,812
39	1,170	16	207	13,000	311	13,200	50,817
40	1,310	18	213	13,600		15,480	53,415
41	1,400	18	227	14,000	388	17,300	61,371
42	1,450	19	218	14,000		18,700	64,049
43	1,590	20	222	15,400	439	20,076	69,625
44	1,730	23	216	17,600		22,228	81,095
45	1,740	24	218	19,700	563	25,280	88,308
46	1,770	26	220	21,700		29,500	100,971
47	1,840	① 28	228	21,700	764	39,900	107,743
48	1,990	① 31	254	28,100		47,500	118,433
49	2,340	① 42	319	33,100	1,220	62,500	140,156
50	3,110	① 46	351	39,900		69,700	160,928
51	3,560	① 51	329	40,900	1,640	74,300	170,877
52	3,950	① 52	363	37,700		79,300	195,721
53	4,160	① 53	318	39,300	1,950	81,400	215,416
54	4,230	① 55	318	42,600		83,900	226,414
55	4,325	① 55	381	44,350	2,208	87,200	250,922
56	4,426	① 57	413	44,350		91,500	251,059
57	4,569	① 57	350	42,810	2,427	91,500	273,866
58	4,657	① 56	321	45,840		93,400	280,698
59	4,811	① 56	329	43,550	2,510	96,600	287,413
60	4,979	① 57	337	41,030		96,600	287,549
61	5,009	① 57	354	㊦ 46,060	2,635	104,100	301,599
62	5,004	① 57	242	㊦ 45,380		105,900	294,490
63	4,896	① 57	244	㊦ 47,520	2,681	108,800	298,745
元	4,975	② 59	273	㊦ 49,010		113,500	305,499
2	4,933	② 60	307	㊦ 50,160		125,600	317,480
3	4,854	② 67	338	㊦ 52,840	2,990	133,800	313,569
4	5,069	② 69	250	50,650		141,000	310,406
5	5,324	② 71	246	49,780	3,304	144,200	330,300
6	6,260	② 74	264	49,390		145,900	329,129
7	5,090	② 78	292	47,110	3,525	147,400	328,016
8	4,685	② 77	308	49,520		143,800	318,676

注1：うるち米については、昭和20年～22年は配給米、23年～46年は非配給米、47年～平成7年までは中、8年はブレンド米  
 2：①は200cc、②は200cc配達価格  
 3：㊦は三揃え  
 4：単位は円。但し、本表の昭和20～21年は銭を含む  
 なお、詳細は「利用上の注意」を参照すること

## 昭和初期の庶民文化

元号が昭和と改まり、これを記念するかのよう命名も、昭・昭男・和男・昭子・和子などが非常に多かった。そして、これらの子ども達は、「昭和、昭和、昭和の子どもよ、僕たちは……。」という新児童歌を歌って成長をした。

また、ラジオが普及しはじめ、毎朝のラジオ体操で一日の生活が始まった。そのほか、蓄音機が五〇円、レコードは三円、くらいで手に入り、古賀メロディーが町や村に流れた。自転車が急速に広まったのもこのころであった。

### 一 子どもの遊び

当時の子ども達は、麦笛・竹馬・かくれんぼ・なわとび・ままごとなどをし、夕暮れ近くまで遊んだ。そうした遊びを絵で示すと次のようである。





二 わらべ歌

「まりつき歌」(その一)

一番はじめが、一の宮、二また、日光東照宮、  
 三また佐倉の宗五郎、四また、信濃の善光寺、  
 五つ、出雲の大社、六つ、村々鎮守さん、  
 七つ、成田の不動さん、八つ、大和の八幡宮、  
 九つ高野の弘法さん、十で、東京心願寺

「まりつき歌」(その二)

ソレコツツンシヨ  
 いちじく、にんじん、さんしょの、しいたけ、  
 ごぼうの、もくろじ、七草、はったけ、  
 きゅうりに、とうがん、ソレコツツンシヨ

「お手玉の歌」

おさら、おひとつ、おひとつ、おひとつ、おひとつ

おろして、おさら、

おふたつ、おふたつ、おろして、おさら、

おみつつ おみつつ、おろして、おさら

おにぎり、おにぎり、おにぎり、おにぎり、おろして、おさら

お手あげ、お手あげ、おろして、おさら、

「ほたるがり」

ホー ホー 蛍こい、

あっちの水は、にがいぞ、

こっちの水は甘いぞ、

ホーホー蛍こい

「子守り歌」

ネン、ネン、

ころりや、おころりや、

坊やは、よい子だ、ねんねしな、

坊やの、お守はどこへ行った、

あの山、こえて、里へ行った、

里の土産に何もらった、

でん、でん、たいこ、

しょうのふえ

# 豊田の方言

## 「あ行」

- ああむく(上を向く)  
あいさ(すきま)  
あいまち(けが)  
あかすか(だめだ)  
あかん(いけない)  
あくと(かかと)  
あたける(あばれる)  
あっちべた(あちら側)  
あらすか(ない)  
ありゃへん(ない)  
あわをくう(あわてる)  
あんばよう(じょうず)  
いいからかす(いいまくる)  
いかすか(行かない)  
いかっせる(行かれる)  
いがむ(ゆがむ)  
いかん(行かない)  
いこまい(行こう)  
いごく(うごく)  
いじくる(なぶる)  
いじや(行こう)  
いせくる(わるさ)  
いっつか(とつくに)  
いっぼど(ずいぶん)  
いみぞ(みぞ)  
いんね(いいえ)

うんこ(大便)

ええころ(いいかげん)

えげる(あきる)

えせって(わざと)

えてこう(猿)

えどくる(いろどる)

ええとこ(良家)

えぶる(くすぶる)

おいでん(来なさい)

おしきせ(お定りのもの、晩しゃく)

おじゃみ(お手玉)

おそがい(おそろしい)

おたまぐす(おたまじゃくし)

おちよける(ふざける)

おとしまい(もったいない)

おとりん(取りなさい)

おまん(あなた)

おんし(お前)

おんた(動物のおす)

## 「か行」

かいい(かゆい)

がいき(かぜ)

がなる(どなる)

かんでき(かんしやく)

きしよく(気分)

まやがる(来る)

ぎり(うづまき)

きんによう(昨日)

くすずる(さしこむ)

くど(かまど)  
くべる(もやす)  
くりよ(くれ)  
ぐろ(ふち)  
けえぐる(ひっくりかえる)  
けっからかす(けとばす)  
けっ(しり)  
けつかる(いる)  
けなるい(うらやましい)  
ごう(松葉)  
ごがわく(腹がたつ)  
こぎる(値切る)  
こすい(ずるい)  
こてる(もんくをいう)  
こんき(たびたび)  
ごんぼ(ごぼう)

「さ行」

さぶい(さむい)  
さらくがいい(さっぱりしている)  
しいこ(小便)  
しゃがむ(かがむ)  
しやへん(しない)  
しやらくさい(なまいき)  
じょうり(ぞうり)  
しょんぼけ(肥おけ)  
せど(裏口)  
せばい(せまい)  
せんしょ(おせっかい)  
そいじゃあ(それでは)

そいで(それで)  
そそくる(繕う)  
そばえる(じゃれる)

「た行」

たいげ(骨おり)  
たいもない(とんでもない)  
だだくさ(そまつ)  
だちやあかん(だめだ)  
たるい(つまらない)  
たんと(たくさん)  
ちいと(少し)  
ちみきる(つねる)  
ちやっと(早く)  
ちやのこ(朝食、朝食前に食べる簡単な食事)  
ちようける(ふざける)  
ちようらかす(からかう)  
ちよごむ(かかむ)  
ちよろい(のろい)  
ちんぎり(かた足とび)  
つくなる(うずくまる)  
つば(たにし)  
つましい(質素)  
でかす(つくる)  
できんだらあ(できないだろう)  
ですこ(ひたい)  
てのご(てぬぐい)  
てんぐるま(かたぐるま)  
とうも、とも(たんぼ)  
どだい(とても)

どべ(びり)

どべた(土間)

とろい(ばか)

「な行」

なりたけ(できるだけ)

なんご(親切)

にがく(みがく)

ぬくとい(あたたかい)

ねだる(せがむ)

ねぶる(なめる)

のぐ(ぬぐ)

「は行」

ばかに(ひじょうに)

はだてる(拡張する)

はば(なかまはずれ)

たま(車輪)

ばんげ(晩方)

ひしゃぐ(つぶれる)

ひとこに(いっしょに)

ひびりん(われ目)

ひとねり(育てる)

ぶるける(つり下げる)

ふんとう(ほんとう)

へぼい(弱い)

べろ(舌)

ぼう(追う)

ほうか、ほっか(そうか)

ぼんつく(魚とり)

「ま行」

まあじき(もうすぐ)

まだ(まだ)

みいへん(見ない)

みいりん(見なさい)

みしょ(見せなさい)

みしる(むしる)

もうはい(すでに)

もじゃかる(もつれる)

もだこと(いたざらこと)

もやいこ(共有)

「や・ら・わ行」

やぐい(弱い)

やくと(わざと)

やっとかめ(久しぶり)

やめりん(やめなさい)

やありん(やりなさい)

ようけ(たくさん)

ようさ(夜)

ようなび(よなべ)

よしん(よしなさい)

よったような(いいかげんな)

らんごく(乱雑)

わきやない(何でもない)

わっぱ(車輪)

わや(めちやくちや)

わやく(いたづら)

## 5 トヨタをねらった3発の模擬原子爆弾による被害 —8月14日（終戦前日）の空襲—

<所在地> トヨタ自動車挙母工場（現本社工場）・元前山住宅南・矢作川河床



### <概要>

マリアナ諸島（テニアン島、グアム島、サイパン島など）に数箇所基地を構築したアメリカ軍は、1945年2月14日以降連日東京・大阪・名古屋などの主要都市のほか地方の中小都市をめぐって激しい焼夷爆弾爆撃をしかけてきた。米軍による空襲はB-29によるものとD51などの戦闘機によるものの2つに分けて考えることができる。

その中心はもちろんB-29による空襲であるが、これはさらに一般的なB-29による焼夷弾攻撃と原子爆弾投下を目的とするテニアン島に基地をおく509混成群団攻撃に分けられる。

さらに第509混成群団の任務も広島・長崎への原爆投下という本来の目的とその準備・訓練のための模擬原子爆弾（パンプキン）投下に分けられる。またパンプキン（正式名称は1万ポンド

〈約4.5t〉軽器特殊爆弾) 攻撃は、準備・訓練に用いられたほか広島、長崎に原子爆弾投下以降は、一般爆弾兵器として日本各地に投下するもので、戦略的には2発の原爆投下でも日本が屈しない場合はさらなる原爆投下もありうるのだというねらいと原爆の効果の比較データを収集しようとする目的があったと見られる。

8月14日のトヨタ自動車を標的としたパンプキン爆撃は、この目的のほかに連合国が日本に降伏を呼びかけたポツダム宣言受諾が決定されるかどうか最終段階での攻撃で、アメリカ軍は日本側の受諾の動向を読み取り最後の総攻撃を仕掛けてきたもので、B-29約1,000機および戦闘機による攻撃を実施した。

この日の攻撃の標的は、熊谷・伊勢崎の市街地への焼夷弾攻撃、光海軍工廠、大阪陸軍造兵廠、岩国鉄道操作場と日本石油土浦製油所で、これに一般のB-29が空爆に参加した。さらに第509混成群団は春日井4発・拳母3発の模擬爆弾パンプキンを投下した。この攻撃にはB-29以外の小型の戦闘機も連動して日本攻撃に参加していた。

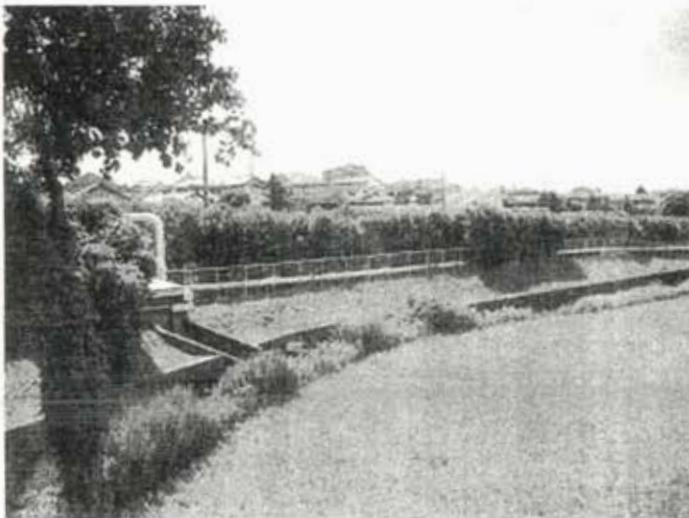
また、この日、戦闘機による空襲で名鉄電車が襲撃されるなどの被害があった。

### (1) パンプキン 1発目

#### 元前山住宅南(現豊田市明和町2丁目)の爆弾穴

1発目は山林に落下した。爆風で住宅のガラスなどが破損する被害が出た。米B-29マツクナイト機が投下したもので、米国戦略爆撃調査団報告の計測記録によれば、直径20m、深さ5mの大きなクレーターができた。

戦後しばらくの間は放置され、子供の遊び場にもなっていたが、宅地開発が進み穴は埋められた。現在その痕跡を見ることができないが、米軍資料写真で確認することができる。



パンプキン着弾点の現在の様子



着弾点からトヨタ本社を臨む

## 投下直後の様子

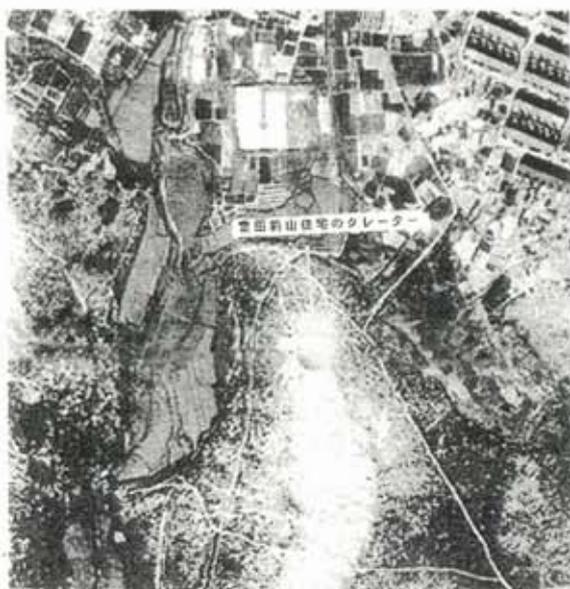
トヨタ自動車を攻撃するために派遣されたB-29が投下したパンプキンは目標を外れて、前山住宅南で炸裂した。トヨタ本社工場はその左側



## \*クレーターの様子



着弾点にできたクレーターに立つアメリカ兵



航空写真からもクレーターがわかる

\*3枚の写真とも米空軍が撮影したもの

## (2) パンプキン2発目 矢作川河床に落下

第2発目のパンプキンはアルバリー搭乗のB-29ストレートフラッシュ機が投下したもので、目標が大きくはずれて明治用水取水堤の下方の巴川と矢作川の合流地点に近い矢作川の河床に落下した。投下された時刻は午後2時58分だった。水遊びをしていた子供たちが多数いたが、少なくとも1名の朝鮮人が犠牲になった。河床に落ちた爆弾の破片は矢作川兩岸の集落に飛び散り大きな被害を出した。

### ① 半数近くの家屋が消失した渡合町

矢作川東岸、巴川の合流地点の北側の南向き緩斜面に高橋村下渡合（現豊田市渡合町5丁目）に27個の集落があり、矢作川河床に落下したパンプキンの破片が降り注いだ。民家の藁屋根などに刺さって発火。火災が発生して尼寺の観音院を含む12戸の農家が全焼した。柘植茂次さんは、当時18歳でこの集落にいた唯一の若者だった。彼の証言によると、飛んできた爆弾の破片であちこちの家が次々に発火し、手のつけられない状態で目の前で自宅を含みあれよあれよという間に消失してしまったという。

#### \*現在の渡合町

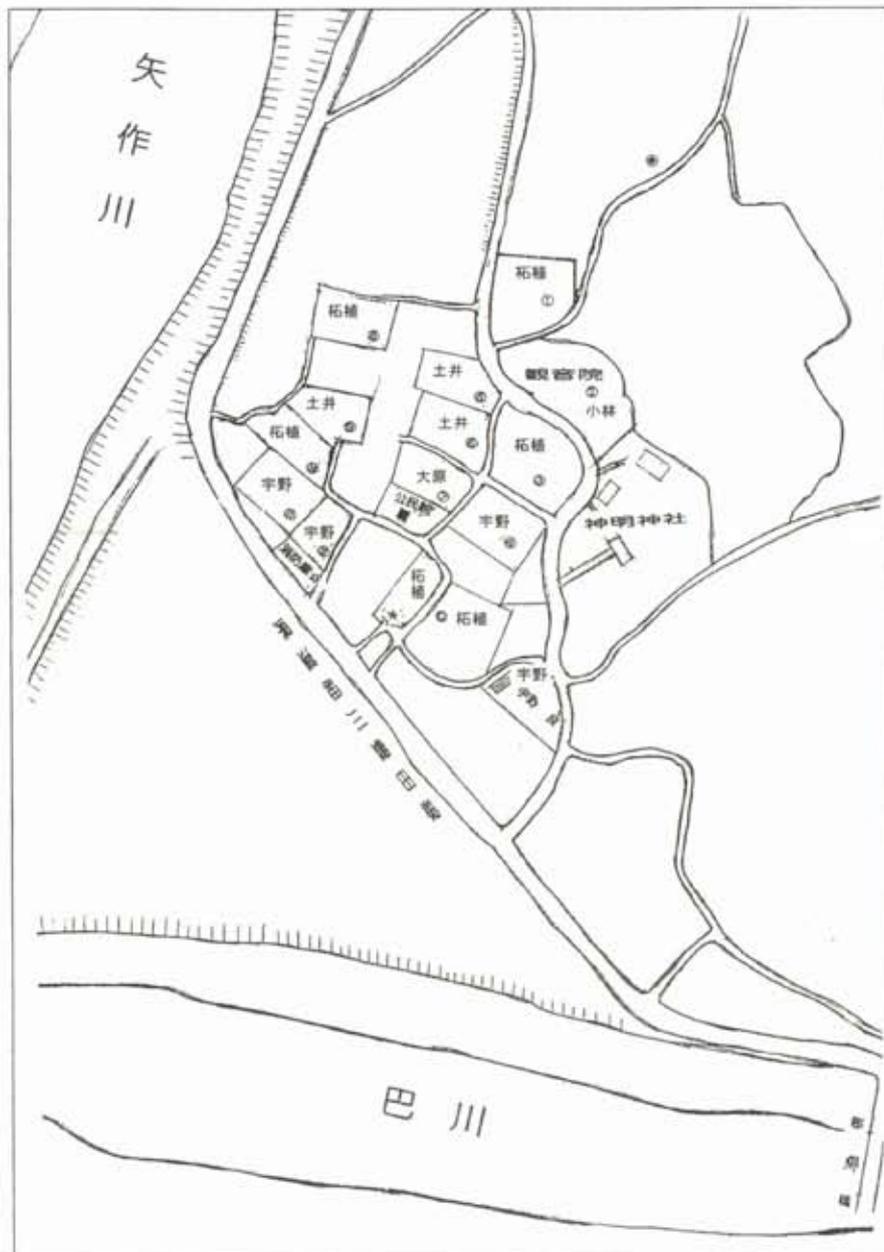


一番高い屋根が観音院



観音院

\* 消失した12軒



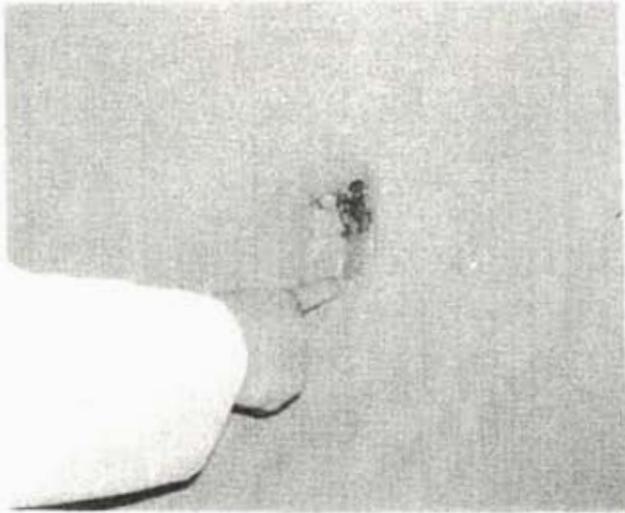
(柘植茂次さんのお話より)

焼失をまぬがれた民家の2階の床の間の壁には、現在も突き刺さったパンプキンの破片が残されている。

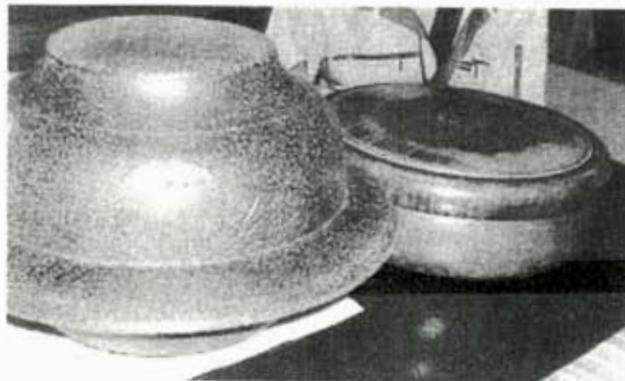
このとき観音院の本尊仏「観音菩薩像」は近所の人に運び出され焼失をまぬがれた。

集落の住宅再建は大きな困難をとめない、伊保原飛行場から格納庫などの払い下げを受けるなど11軒の被害家族は手を取り合って苦勞をとみにした。

1963(昭和38)年頃から21年間「昭和20年8月14日3時の会」という会を発足させて、同じ日に、被害を受けた12軒中10軒が参加する集いを開催し、往時をしのび再びこのような惨事が起きないように懇談してきたという。



壁にささったまま残っているパンプキンの破片



惨禍をまぬがれた民家の茶釜と観音院茶びつ

## ② 細川町の被害

渡合町の南端を東から流れてくる巴川は矢作川と合流する。巴川にかかる県道豊田細川線の郡界橋を渡ると岡崎市細川町の小集落がある。パンプキンの破片の落下で1軒の農家（長坂文一さん宅）が消失した。

## ③ 朝鮮人労務者の協力で火災をまぬがれた今地区

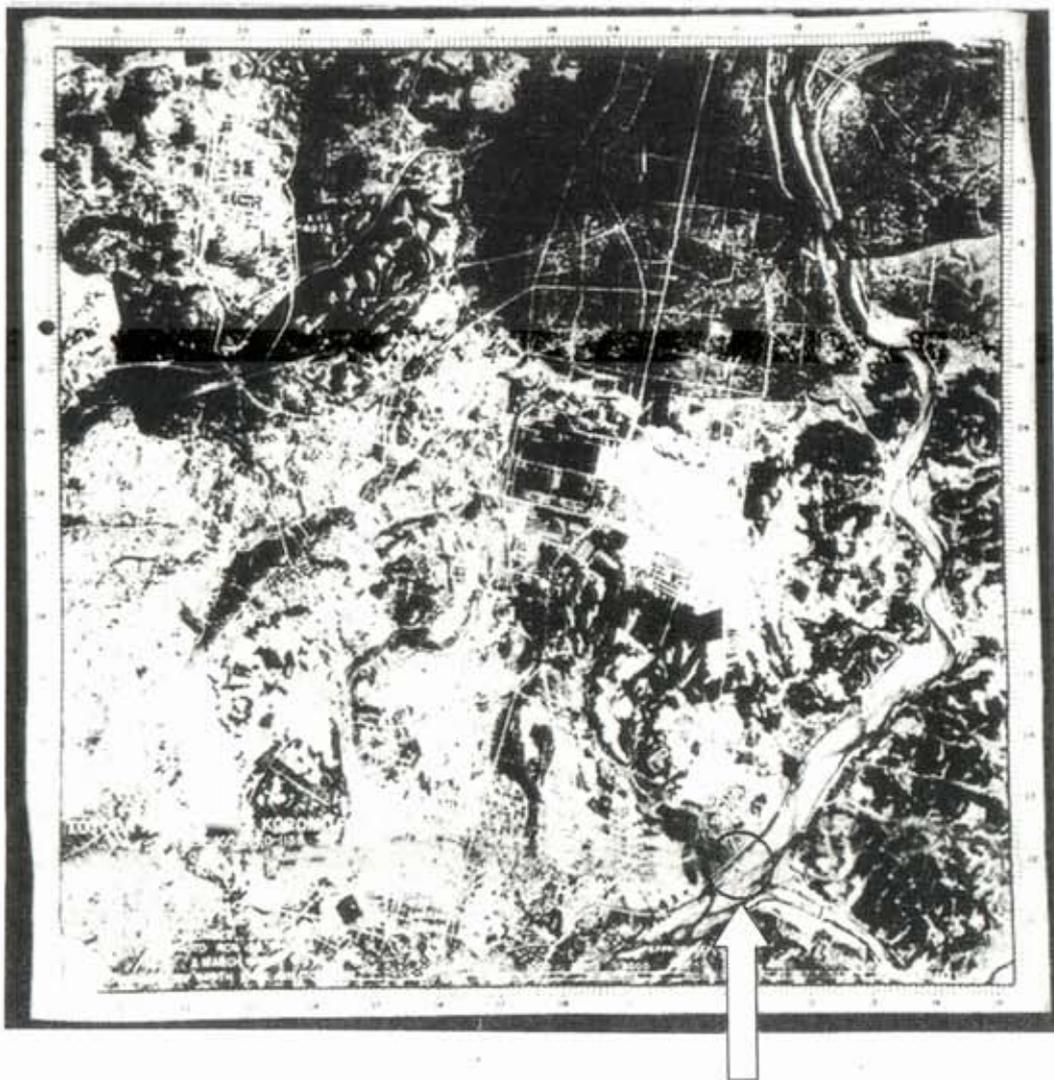
渡合町と隣り合う矢作川西岸沿いに今村（現豊田市今町）の集落がある。模擬爆弾パンプキンは、矢作川の今町寄りの河床に落下したが、破片の量は渡合町より少なかったようだ。

それでもあちこちで火災が発生した。しかし薪小屋が焼ける程度で全焼した家屋はなかった。この集落約60戸の農家の納屋には、朝鮮人労務者がこの集落の人口に匹敵する200人ほどが住んでいた。発火した家は10件ほどであったが、この朝鮮人の人たちが初期消火に当たったので渡合地区のような被害はまぬがれたという。爆弾投下地点に近かったので爆風による被害が大きく、土蔵の扉が開かなくなったり、家中の建具はすべてはずれ天井板が落下するという家屋があった。



\*バンブキン 2 発目の着弾点。 矢作川と巴川の合流地点。当時はもっと水量が多く、子ども達はよく水遊びをしていた。

\*トヨタ挙母（現本社）工場を標的とする石版集成図（米国立公文書館）



第2発目落下地点

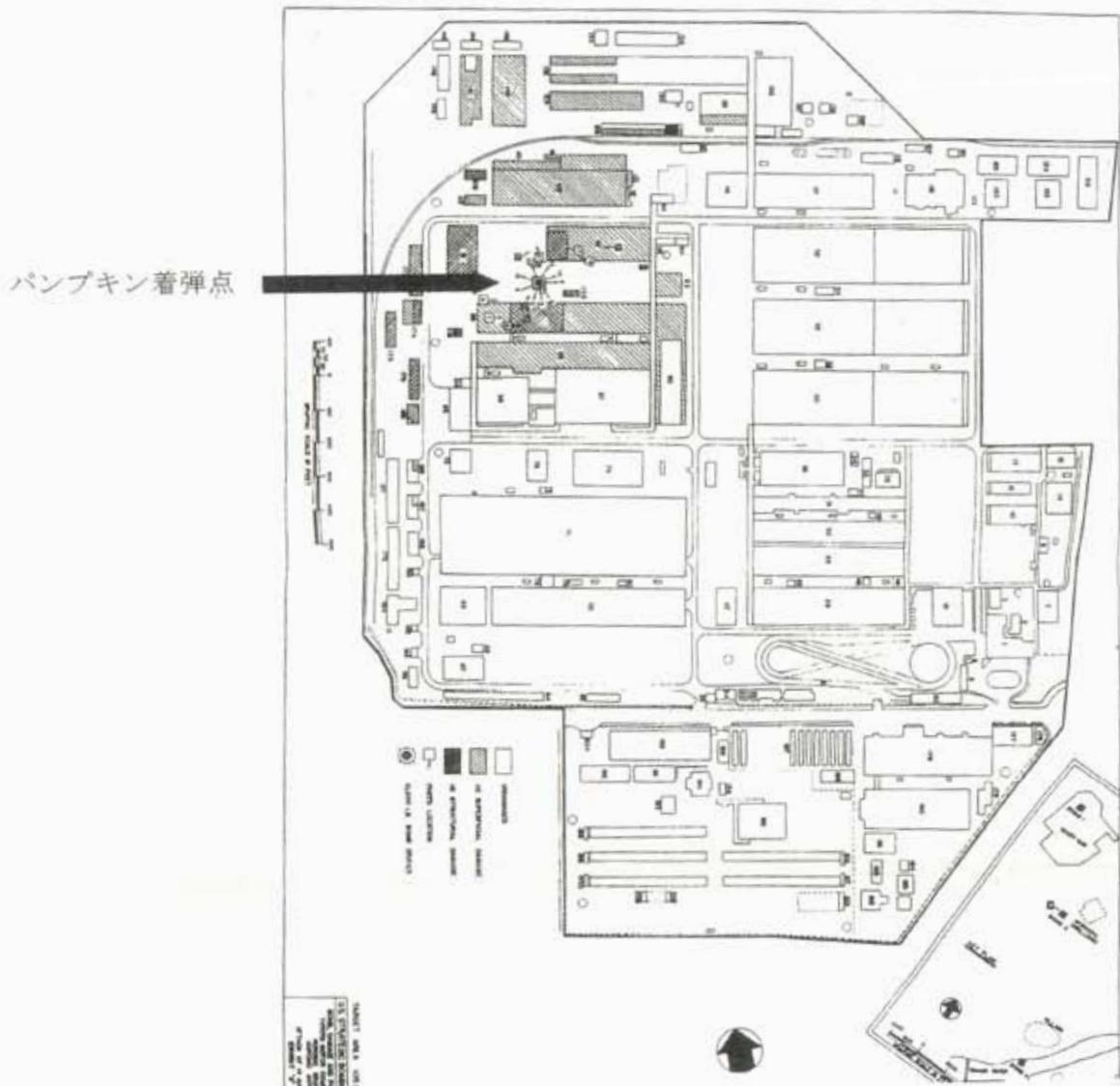
この矢印の上の川に小さな×印がついている。

### (3) トヨタ自動車の被害 3発目のパンプキンが工場地内に落下

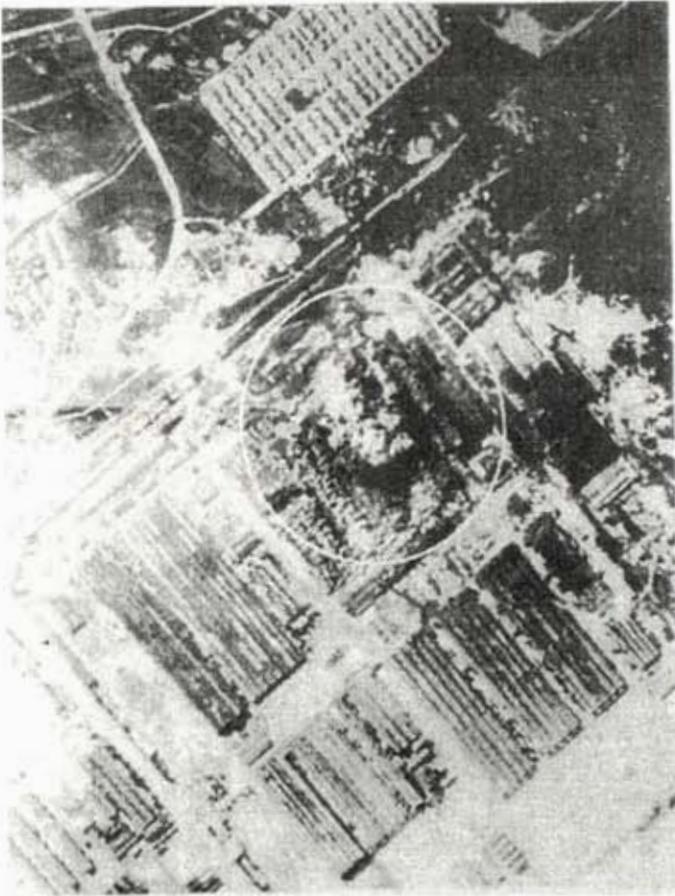
パンプキンの第3発目は、目標どおりトヨタ自動車に落下し大きな損害を出した。

米軍資料によれば、投下したのは第509混成群団に所属するフレデリック・C・ボック大尉のB-29 (A298、V83 愛称フルハウス) で、投下時刻は午後3時01分だった。

落下地点は、工場の中央北側の可鍛鋳物工場と第2特殊鋳物工場の中間の空き地の防火水槽で、この2つの工場の電機炉の電源関係装置が直接の被害を受けた。第1特殊鋳物工場、第2特殊鋳物工場、普通鋳物工場、焼鈍工場、中子工場、鍛造工場、付属倉庫の7,712坪 (25,450㎡) の建物の屋根のスレート瓦が飛んだり、壁が崩れたりし、なかの機械、仕掛品、原料の被害があり、その被害は拳母工場 (現本社工場) の2%であったと「トヨタ自動車20年史」には記されている。



※被害は斜線部分



\* 模擬原爆攻撃をうけるトヨタ本社工場



市子博保さん  
前山町在住 昭和2年生まれ  
トヨタ本社模擬原爆投下地点に勤務し、防衛隊として、最後まで職場の様子を見届けて脱出。  
模擬原爆投下を最も近く、丸山橋でみられた。

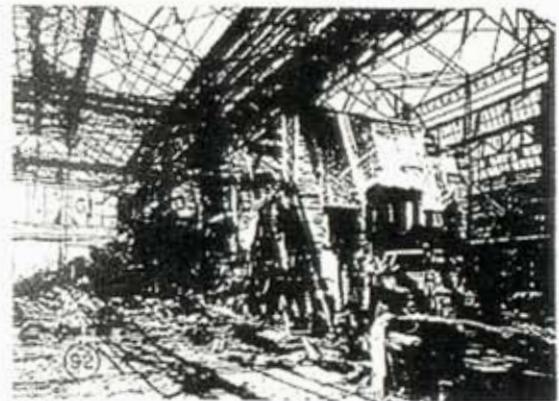
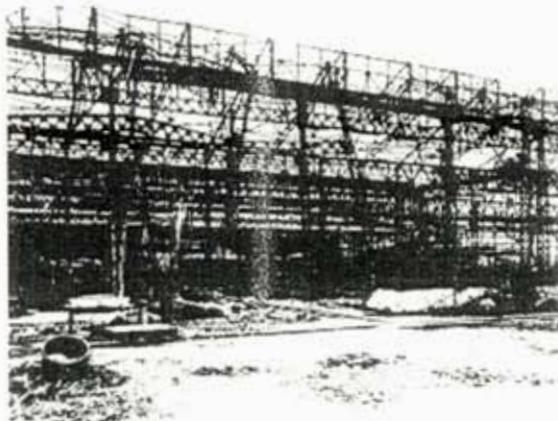
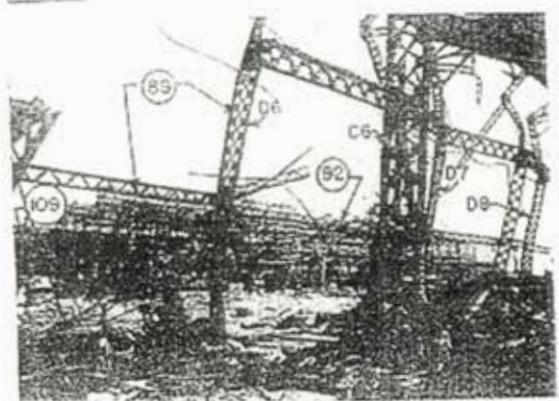
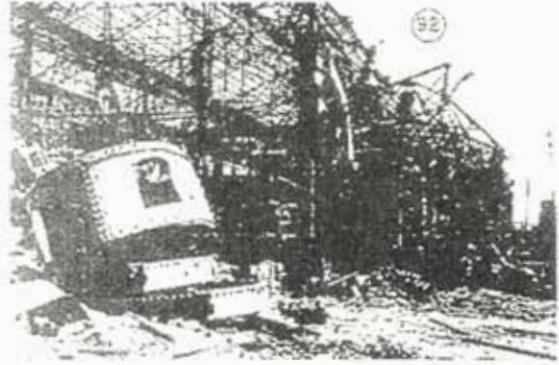
被害状況については、終戦直後の1945年10月30日から11月3日米軍調査団が派遣され詳細な調査報告書(『合衆国戦略爆撃概要 日本攻撃目標に対する1万ポンド爆弾の効果9件に関する報告物質的被害部門』1947年5月)が作成されている。

また爆撃の状況については、直接爆撃を行った当事者C・ボックのトヨタ自動車最高顧問豊田英二氏あて『書簡』に記されている。それらの諸資料によれば、500kgもしくは1t爆弾だとトヨタ自動車側は考えていたが、実際は長崎に投下された原爆(ファットマン)とまったく同サイズで作られた「模擬原子爆弾」で黄色く塗装されていたことからパンプキン(かぼちゃ)と愛称され、重量は1万ポンド(4.5t)でプルトニウムではなく通常の高性能爆薬2.4tが詰められた巨大な爆弾で、2発の原子爆弾と同様に普通のB-29には搭載できないため、改造された専用のB-29の15機がテニアン基地に配備されていた。

パンプキンは全国に全部で49発投下され、テニアン基地に未投下のパンプキンが66発残されており、原爆施設や諸器材とともにすべて海洋投棄された。

なお、トヨタ自動車では1万人以上の人々が働いていたが早期に退避したため死者は出なかったという。

\* 工場の被害状況の一部



\* 米国立公文書館より

<参考書>

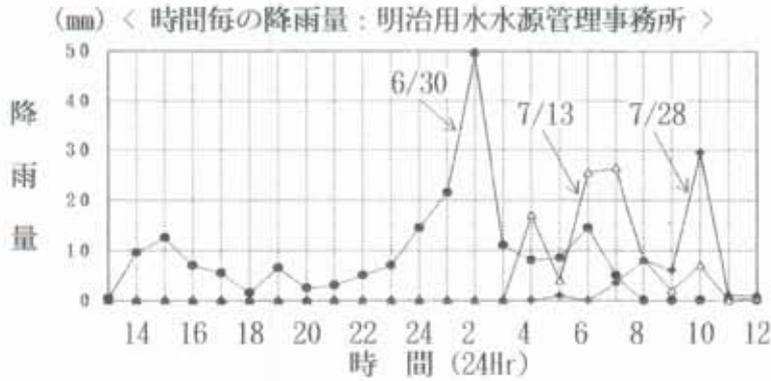
『トヨタ自動車20年史』 1958年11月30日刊 トヨタ自動車工業株式会社社史編集委員会

『1946年8月14日 終戦前日その日豊田は戦場だった』 2003年7月20日刊 豊田市平和を願い戦争を記録する会編

『私は模擬原子爆弾パンプキンを豊田へ投下した』 2005年刊 豊田市平和を願い戦争を記録する会

『写真が語る原爆投下』 奥住喜重・工藤洋三著 2005年7月24日刊

# 大見川の氾濫（平成11年の梅雨）

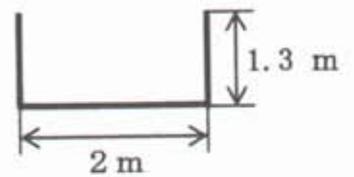


大見川周辺の水田が埋め立てられたことにより、平成10年頃より時間30mmを超えるような雨が1時間程降ると、大見川が溢れ、道路が冠水するようになりました。  
(矢作川の水位は変化なし)



6月30日

大見川の水路断面



7月28日

## 準用河川大見川 河川改修事業

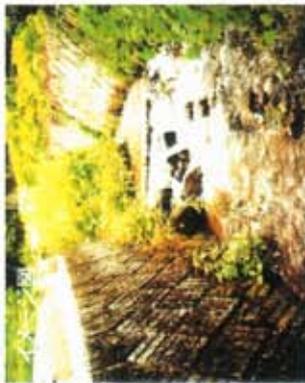
### ○事業目的・効果

- ・矢作川からの逆流による洪水被害を防止し、大見川流域住民の安全性の向上を図る。
- ・川の整備には、多自然川づくりを取り入れ、環境に配慮したものとす。

### ○事業概要

整備方針 1/10  
計画流量 34t/s  
勾配 1/500  
流速 V 1.963m/s

事業延長 L=500m  
河川幅員 W=約18m  
右岸市道 W=4.0m  
左岸市道 W=5.0m



### ○多自然川づくり

河川断面図 (R=0.1~0.6 (注4.0))



環境水制工



分散型浄水工



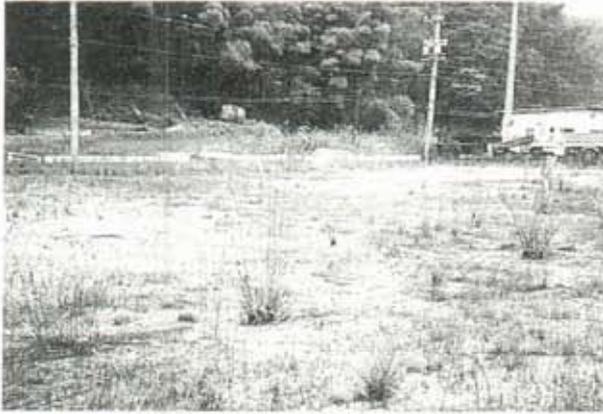
### 大見川の河川改修

平成18年9月に改修計画の説明会が開催され、平成19年度から用地買収、平成20年度から第1期工事に入る予定でしたが、平成20年9月のリーマンショックから市も財政難となり、進捗がかなり遅れています。



# お年寄りの生きがいがづくりに 4月「花工場」オープン

お年寄りが花の苗を栽培する「花工場」が四月、豊田市室町に誕生する。高齢化が進む中、少しでも生活が豊かになることを目指す。同市



お年寄りが花の苗を育てる「花工場」の整備予定地＝豊田市内で

同センターの会員らが苗の世話をし、三月末までに育苗のノウハウについて学習。オープン後は地域住民の協力を得ながらパンジーやペゴニア、サクラソウなど家庭で親しまれるような花の苗を季節に合わせて栽培し、年四回ほど市場への出荷を予定している。

一回目の出荷は今年秋ごろになる見込みで、同センターでは「最初は試行錯誤の繰り返しだったが、栽培に慣れたきたら品種と生産量も増やし、販路拡大につなげていきたい」と期待している。

## 豊田市人材センター運営 今秋にも出荷

ルバー人材センターが管理が備地する。三月末までに市が、敷地内にビニール温場所を整備。残ったスペースは路地栽培用に活用する約二千平方メートル。ガラス温室（約百五十平方

中日新聞  
平成9年2月4日

中日新聞  
平成9年8月2日

## 生きがいの花作り 「山室花はうす」お年寄りら種まき

豊田市



パンジーの種まきをするお年寄りたち＝豊田市内で 中日新聞

お年寄りの生きがいを増やすために、豊田市室町に整備された「山室花はうす」で三十一日、初めての種まきが行われた。

同市が今年三月に完成させたもので、ガラス温室とビニール温室が一棟ずつあり、計約三百七十平方メートル。市シルバー人材センターが運営し、同センターの会員約三十人が栽培を担当する。

この日はパンジーの種まきをし、会員らは地元の農林高校の教師たちから「土にしっかりと水を含ませてください」と指導を受けながら、約二時間ほどかけて、育苗箱に種をまいた。

パンジーは十月中旬には咲き始める見込みで、順次出荷される。会員たちは「季節ごとに、美しい花を温室いっぱい咲かせたい」と張り切っている。

## 生きがいの花 待望の初出荷

中日新聞  
平成9年10月7日

## 豊田の山室花はうす 高齢者手作り



出荷を前に花に水をやる高齢者＝豊田市内で

高齢者たちの生きがいを増やすとして、豊田市室町に設置された山室花はうすで栽培された草花の初出荷と販売が始まった。

「花はうす」はビニール温室とガラス温室の二種（計約三百七十平方メートル）あり、市が整備。豊田市シルバー人材センターが運営している。

栽培を担当しているのは豊田市シルバー人材センターの会員約三十人で、七月下旬に初めてパンジーなどの種まきを行った。その後、地元の農林高校の教師たちから指導を受けながら、高齢者たちが大事に栽培、待望の初出荷を迎えた。

出荷されるのは、パンジーやペゴニアなどの約二万株。5（31）～10（7）へ。

花の販売などに関する問い合わせは、豊田市シルバー人材センター（電話0565-100711）へ。

で、十月中は市内で開催される各種イベント会場で販売。十一月からは「花はうす」でも販売を始める。今後、種類を増やして、季節ごとに栽培していく予定だ。

## 東海環状自動車道

名古屋の近郊を環状に結ぶ東海環状自動車道（豊田市～四日市市を結ぶ約160km）の内、豊田東JCT～美濃関JCT（73km）が完成し、平成17年1月30日には矢作川大橋（豊田アローズブリッジ）～鞍ヶ池PAが歩行者に開放され、また、3月6日には松平IC～勘八ICが開放され、豊田マラソン&ウォーキングを開催、約3万人が参加しました。

愛知万博「愛・地球博」の開幕に先立ち、3月19日には供用が開始され、沿線の産業基盤の充実や通勤圏の拡大が期待されています。

〔 矢作川大橋:全長820m、橋脚高さ135.7m(日本一高いコンクリート主塔)  
愛知万博:「自然の叡智」をテーマに、3月25日～9月25日まで開催。来場者数は約2200万人。 〕



## 第2東名高速道路

平成22年現在、松平JCT～引佐JCT（54km）の工事が平成26年度完成に向けて進められています。豊田東JCT～海老名南JCT（全長255km）の完成予定は平成32年度です。